

空
の
キ
オ
ウ

風
の
カタ
チ

TAKARABUNE2025



TAKARABUNE 2025

2025 3.19 → 23 埼玉県立近代美術館 一般展示室1

TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」記録集

目次		掲載ページ
ごあいさつ……2025年のTAKARABUNE	三浦 清史 (SMF代表、建築家)	p1
出展記録・出展者メッセージ	各出展者 (下記一覧参照)	p2～41
エントリースート	各出展者 (下記一覧参照)	p42～46
会場レイアウト (作品配置図)	長野 恒 (SMF運営委員)	p47
会場イベントの記録	構成: 中村 隆・中村 誠 (SMF運営委員)	p48～49
来場者アンケート集計結果	報告: 中村 誠 (SMF運営委員)	p50～51
SMF履歴書		p52
「風のカタチ 空のキオク」を終えて	三浦 清史 (SMF代表、建築家)	p53
奥付・SMFのミッションと入会のお誘い		p53

TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」出展者・作品名・掲載ページ一覧

No.	作者名	作品名	掲載ページ
1	石崎 幸治	絵のような写真 錯視陶器	p2-3、42
2	絵手紙浦和会	風と空を感じる十人十色展	p4-5、42
3	加藤 典子	空気界限	p6-7、42
4	金原 京子	揺れる青と空	p8-9、42
5	クリスタルトーラス (jik & taco)	Vega & Alta 『ベガとアルタ』	p10-11、43
6	シミズフローラルデザインスクール	時が風に乗って空に残したものは?	p12-13、43
7	社会芸術／ユニット・ウルス	野良の藝術 2024「創造の根源を考える」報告展示	p14-15、43
8	SYUTA (三友周太)	25K 風のカタチ 雲のカタチ*	p16-17、43
9	suzu	君のいろ	p18-19、44
10	出店 久夫	書の館—古代の図書館を偲び個人的な記憶の累積するブックアート群による展示	p20-21、44
11	電子音響ピープルプロジェクト&東京電機大学「作曲音楽文化研究室」	Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Musicbox	p22-23、44
12	中村 元	写真 中村 元の世界「モドキ」	p24-25、44
13	中村 隆	TAKARABUNE 2025 ポスター	p26-27、45
14	西尾 路子	カタチに座してキオクする	p28-29、45
15	はたみき	ときどきドキドキ同意Tシャツ	p30-31、45
16	菱田 祐一郎	RECORD_T51 花風	p32-33、45
17	みょうか	空と知らせと夜の月／(夢のシート)美術館でなら着れるかも? ファッションショー	p34-35、46
18	森久 憲生 (上尾アートセンター)	『THE archive 2024』 in the Ageo Art Center	p36-37、46
19	矢花 俊樹	そらのきおく／(夢のシート) MOMASで蝶をつくらう	p38-39、46
20	山口 素子	雲紡ぐ	p40-41、46

*展チラシでは誤って「25K 風のカタチ 空のキオク」となっていました。お詫びして訂正いたします。

ごあいさつ……2025年のTAKARABUNE

風のカタチが見える伝説の溪谷があるという
空のキオクは天に達する梯子の始まるところ
森羅万象たえずうつろい流れゆく、現世の掟
はてしない時間の海に漂う、旅人はいずこへ

詩人は言った、ぼくキトク、魔術師目覚めよ
そしてここに集まった20名(組)の魔術師たち
風のカタチ空のキオクを自在に操るものたち
個性溢れる豊かな世界、どうぞおたのしみあれ!

今年のTAKARABUNE展、趣を変えたこんな呼びかけから始まりました。山本太郎の詩を引用した
タグボート役を担う中村 誠さんの水先案内です。

船の名前をローマ字に書き改めてもう3年目。たがやされた雲海に蒔かれた夢のカケラから芽生えた
アートの花見を目指して漕ぎ出したTAKARABUNEが向かう先には伝説の溪谷があるのか、天に達する
梯子が始まるのか。この時間に漂う旅人は、ここに展示された作品の作家たちとTAKARABUNEを
操るぼくらSMFのなかまたち、そしてこの船に乗り込んでしまったあなたがたも。個性溢れる豊かな世界
「風のカタチ 空のキオク」をたのしんでいただけたでしょうか。

TAKARABUNEは、実現したいと思うアートプロジェクトの素を夢として自由に語り表現するアン
デパンダン形式の展覧会、その発端は、夢のかげら「アートの素」を展示した2013年の「さんなすび展」
か、2015年宮代町の進修館で開催した「アートのまつり」になるのでしょうか。

いずれにしてもひと昔を越す継続で、思えばずいぶん長く漂流しつづけてきたものです。それでもそ
の時間の経過で、いまやぼくたちSMF (サイタマミュージーズフォーラム) を象徴する企画のひとつになりま
した。展示された作品やアイデアが、意外な出会いによってあらたに動き出し、出会ったもの同士がつな
がり、さまざまな活動が発生し、あらたな作品が出現する、そうしたアートのプラットフォームの役割も
はたしてきました。

SMFは既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画し、アート
をめぐる多くの人がつながってゆくための広場、フォーラムです。

SMFではさまざまな生き方をしてきた人が集い、触発し合いながら、まだ見たことも聴いたことも経
験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになるこ
と、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指して活動してい
ます。

そこで、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとしながら、美術、建築、音楽、文学、ダンス、
パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域の会員が、ミュージアムの中だけにはとどまらず、その目
指す目的ための事業を企画立案し開催しています。それらの中のメインマストがこのTAKARABUNE
展です。プロ、アマ、経験、分野を問わず、多士済々の表現で埼玉県立近代美術館一般展示室を埋め、
一同に集い語り合う、年に一度のイベントです。

船に乗り合わせた魔術師たちが鮮やかな黄色いハンカチから、どんな素敵な作品を羽ばたかせて
観客を驚かせたのか、この記録集をめくりながらもういちど楽しんでみてください。

三浦 清史 (SMF代表、建築家)

絵のような写真 錯視陶器 石崎幸治

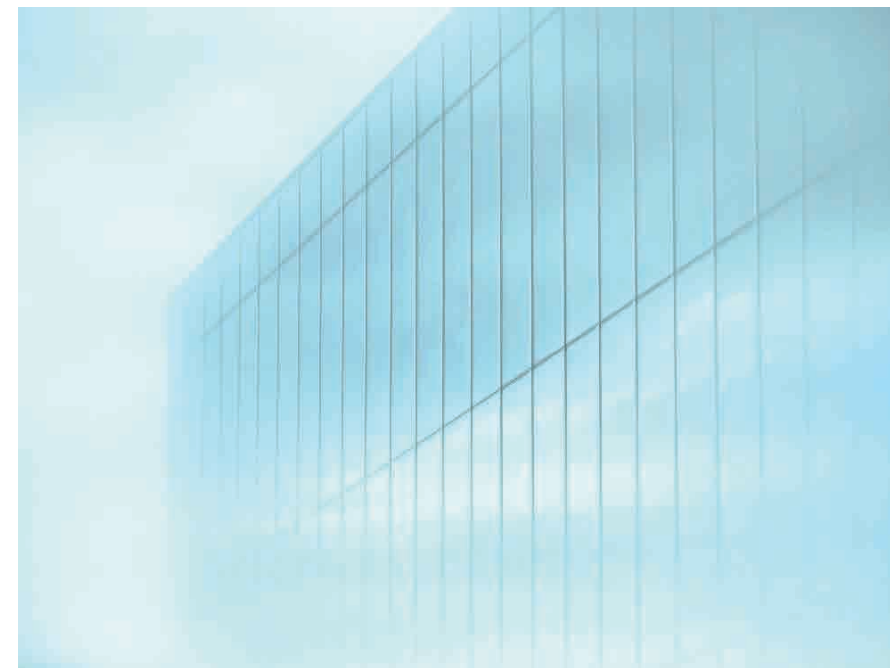
「錯視陶器」

アート作品を作るためには技術も大事ですが、現代アートでは作品を創り出す際の「考え方」や「発想」の方がより重要です。矢印の向きが鏡に写ると反対に見えてしまう「錯視陶器」を作りました。人間は目から入った情報を脳が認識するから見えるのです。見る人の意識を変革する力も持つアート作品を作りたいと願っています。



「絵のような写真」 副題(印象 空と鉄橋)

絵画は手で時間を掛けて描き出すから作者の感情を込められるように思います。写真は被写体をカメラで一瞬の内に記録するから、撮影者の思いを表現しにくいように感じます。鑑賞に堪える写真を作るために、制作意図が明確になるような被写体を選び、且つ撮影後に加工して仕上げました。テーマは「静寂」です。





「風と空を感じる十人十色展」絵手紙浦和会・阪本里美 / 最上段左右は 絵手紙創始者・小池邦夫の絵手紙
材質：文字筆、彩色筆、青墨、顔彩、画仙紙ハガキ、大判ハガキ、巻紙

初めての出展で少し緊張しましたが、「風のカタチ空のキオク」を感じて皆様でかきました。
ありのまま四季折々の十人十色の絵手紙です。
たくさんの絵手紙友達が会場に来てくださいました。
レイアウトが大変でしたが、TAKARABUNE2025 の皆様にご協力頂きありがとうございました。
心から感謝しています。

日本絵手紙協会 公認講師 阪本里美

小池邦夫(絵手紙創始者) 絵手紙で大事にしたい7つのところ。

- 1 ヘタでいい ヘタがいい
- 2 よく見て 大きくかこう
- 3 下書きなしの一発勝負
- 4 筆と墨の魅力
- 5 線を大切にゆっくりかこう
- 6 心こめた言葉をかこう
- 7 かいたら必ず出そう



絵手紙歴 30 年間に培われたお仲間さん達がグループでご来場、絵手紙の会話も弾みました。



「上の金色は朝日や夕日に輝く雲で赤の丸は朝日だったり夕日だったりを表現しています」など、さまざまな思いを語り合いました。



「風と空のレイアウトはこの会場に正にあったかい風が吹いていますね」などの感想が寄せられました。

加藤こどもの
造形教室

…風のカタチ 空のキオク…



2024 年度作品○安藤光希(小4 年) 1「フクロウ」5「記憶をつくる(たとえば町)」○赤松律樹(小4 年) 2「毛糸のダンゴムシ」3「手編みベストと帽子」8「磁石工作」9「自画像」11「折り紙リング」14「ドラえもんの手」18「折りたたみハウス」○毛塚隆文(小3 年) 4「クウキラドン」13「ホッケーゲーム」○岡崎春乃(小4 年) 6「惑星貯金箱」10「空気のとね」17「シマエナガが乗っているクラゲ回転塔」○兼安岳(小5 年) 7「マイタウンジオラマ」16「手編みマフラー」○田中千紘(小3 年) 12「障がい物迷路」○都丸司(小5 年) 19「自由工作」○15 会場の展示の様子○20 さいたま市主催事業「土曜チャレンジスクール」2025 年 2 月 1 日「フタを開ければいっだって今日の空気が入っている」参加者作品

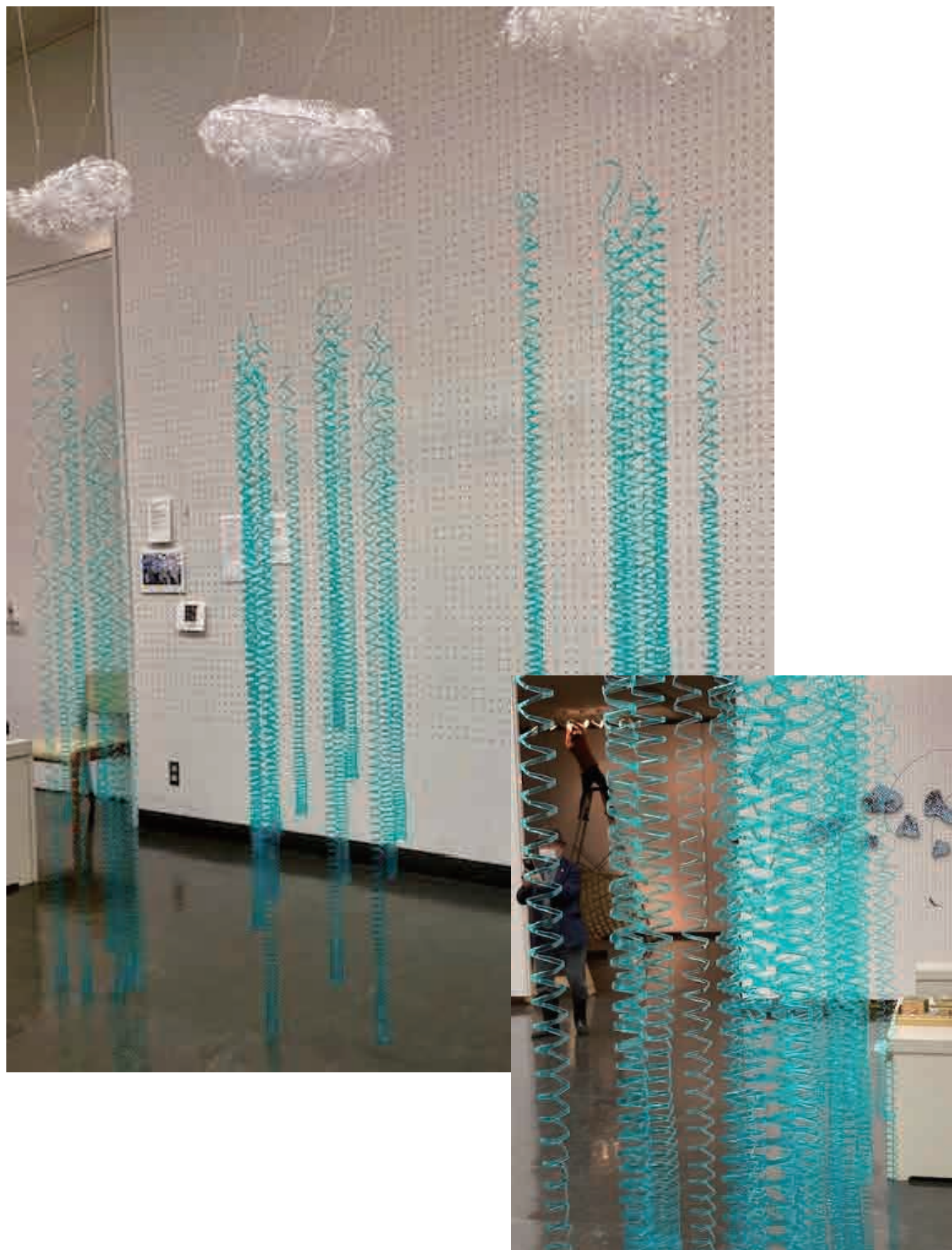


「Tornado of my life」

Tornado
of my
life
素材は 2019 年 12 月～
2025 年 3 月の私的なレシート

金原京子《揺れる青と雲》2025 年

制作日数：3 カ月 材質：PET ボトル、PET 樹脂



私にとっての風と空

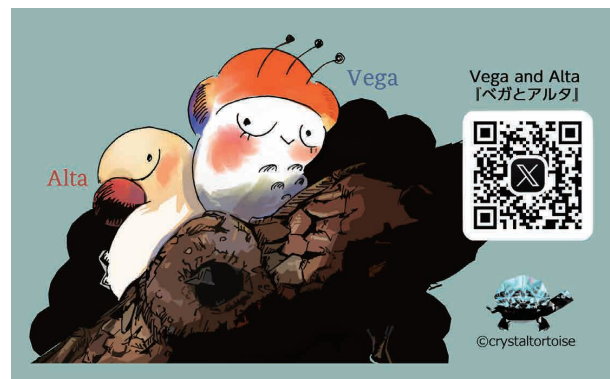
それは目で見ることが出来ない、空気と共に、触れて、動くことで初めて感じるもの。そのことを思い雲と雨をラセンで表現しました。

PET ボトルを一定の幅にハサミで切る。紐状にしたものを棒に巻きつけ熱であぶりラセンにする。

PET 樹脂版にも巻きつけて雲としました。

揺れるラセンで風に遊ぶこと…



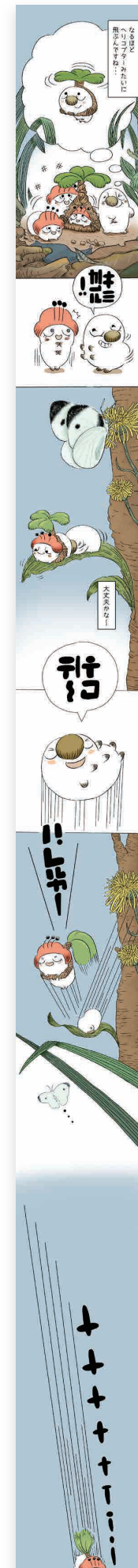
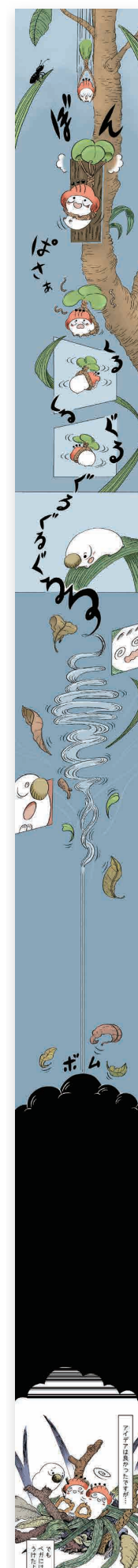


Vega and Alta『ベガとアルタ』

2023 年から SNS 上で展開している Vega and Alta の物語の序章を FlipToon 化したものを、パネル化して展示しました。

ミノムシの二人が空を飛ぶことを夢見て頑張る物語は楽しんでいただけましたか？ベガとアルタの物語は始まったばかりです。今後の展開にご期待ください。

パネル展示風景



使用材料 練習済みの反故和紙の紙縊り 1,200 本
透明ストロー 1,000 本

まずはストローを壁のボードに挿して大きさを決めます



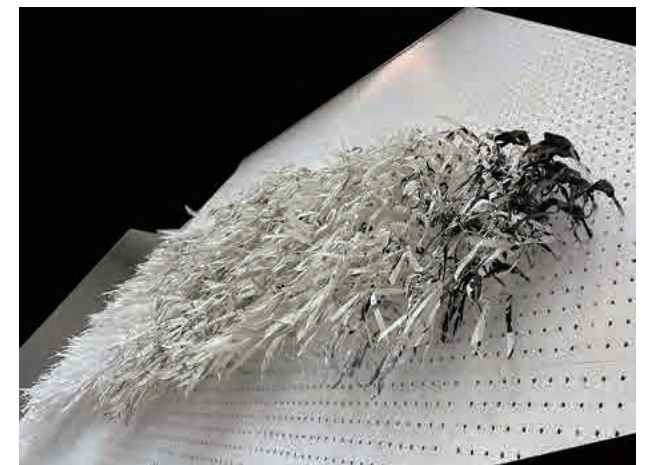
中にストローと紙縊りを互い違いに挿していきます



全体を埋めます



一つの紙縊りが時を表します。
右から左に、誕生から人生の終わりに向かって、
風に乗って空に、その時を残して行きます。





6、7*



C、



8、C、



3*

3、

展示「BORO野良の声」：
BOROに魅せられて

私は若い頃から旅が好きで、特に地方に行くと、今までにない田舎の生活環境の品々に魅せられたことが、度々あった。

ある時、60年ほど前東京の露店の数々の骨董市に行くところ目にした品々がいっぱい並んでいた。私はそれらに何故か心惹かれていった。そこに旅の時得た想いを感じたからである。

特に農村の何気ない生活感のある品々の中に、力強い品々に魅力を感じた。その中の一つが、一般的に言う「ぼろ」である。

そこには、昔農村は厳しい生活の中、衣料などは、とことん工夫をして、これでもかと思うほどに使い尽くしている。

そこに私は美を感じてしまって、今まで数々の品々を蒐集してしまった。

ある時骨董店主に「池田さん! これらの品々には、その当時相当厳しい生活があり、それを考えたことありますか?」と問われたことが、耳に残っている。

しかし、今時代が変わり、また人それぞれで、表現を変えれば、これは「野良の藝術」と言っても過言ではないと思う。

布を丈夫にする為の刺し子、粗い麻布に保温するためのこぎん、また、使いつきた布のぼろを裂いて織るなど、当時の女性たちの美意識にも感銘を受けた。

池田照雄



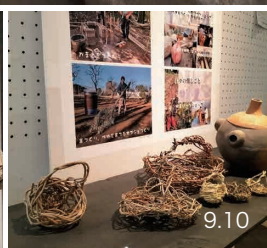
2、C、



8、



B、



9.10

野良の藝術2024報告+α 社会芸術/ユニット・ウルス

- 1、「BORO-野良の声-」：
池田照雄コレクションによる
野良着インсталレーション/天井吊り
- 2、「大地の呼吸 生物の自然循環の時へ」
穀類炭製造機：焼き物煙突2組
バイオ炭ビニール袋詰品 30袋
/野良WSチーム、
衛守和佳子、吉田富久一、長谷川千賀子
- 3、「ダイダラボッチの足跡」：動画
プロジェクターで天井に照射
/イイジマ フヒト
産土へ 萩原毅
- 4、「手の記憶」：杉皮紙、蜜蝋、ワイヤー
/柳井嗣雄
- 5、「dance!」：竹作品
/石井国義
- 6、動画「野良の藝術2024」 モニター
/本多慎吾
- 7、動画「野良の藝術2024 総集編」モニター
/いしばしめぐみ
- 8、「藁布団へのオマージュ」/長谷川千賀子
- 9、内容パネル展示 壁面4m
- 10、秋フェス参加作品/石崎幸治(陶器)
鈴木知佐子(蔓)、吉田富久一(土瓶)
- 11、竈門蓋/吉田富久一
- 12、柿渋づくりワークショップ道具/萩原毅
吉田富久一、長谷川千賀子

パフォーマンス

- A、踊り Suikinkutsu：細田麻央
音楽：マヤ・フランチェスコ
- B、詩の朗読「好音」：高橋良知
渋谷定輔詩集「野良の叫び」、
T.S.エリオット「荒地」
- C、モダン・ダンス
「かって、緑の哲学を唱えた人がいた」：
彩のくに創作舞踊団 藤井香
/出演：海保文江、佐々木春呼

写真*印以外：石崎幸治



3*産土へ

創造性の共有

野良の藝術ではさぎ山(さいたま市緑区)での野良作業を中心に毎月ワークショップを開催し、そこで制作した囲炉裏や石のかまどを囲んで語り、収穫物をかまどで創作調理し楽しんでいる。

そういった共有の体験を積み上げその成果を秋の藝術祭へと繋げる社会実践の芸術を行っている。

温故知新として、昔の事をたずね求め温めて、そこから新しい見解を導きたい。野良にフォーカスすることから最先端の道が開ける。今回展示されたバイオ炭もその一つである。もみ殻を炭にして大地にもどすことで土壌を豊かにすると同時に炭素貯留になる。

お百姓さんたちが大切に考えた野良仕事は、循環再生を考えて里山をつくること、食を得るために耕したり道具をつくり段取りをしたりすることであった。そこには芸術の源が確かに脈打っている。

高度な人工化の中で今求められることは協働の体験であり、土、水、火とダイレクトに関わるホリスティックな働きかけの芸術であろう。

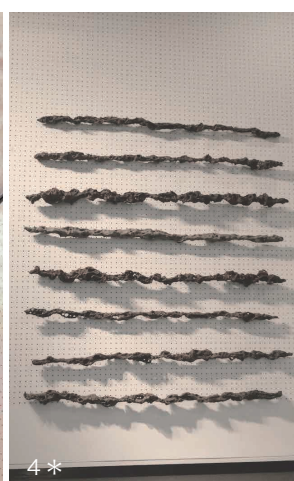
今回はその報告として①協働インсталレーション、②踊り、③詩の朗読、④造形作品 ⑤野良着BOROの構成で展開した。



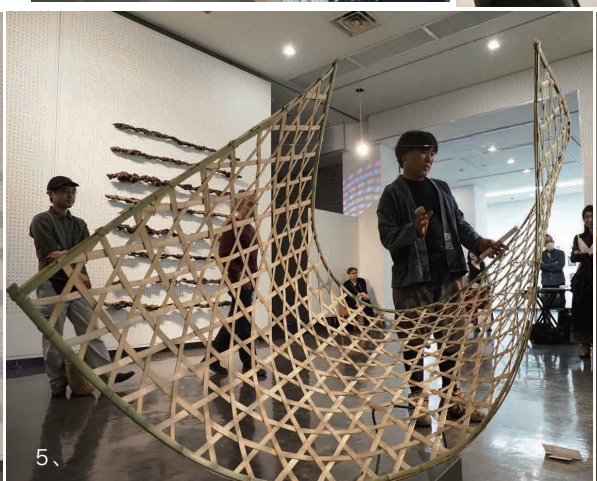
2*



4、



4*



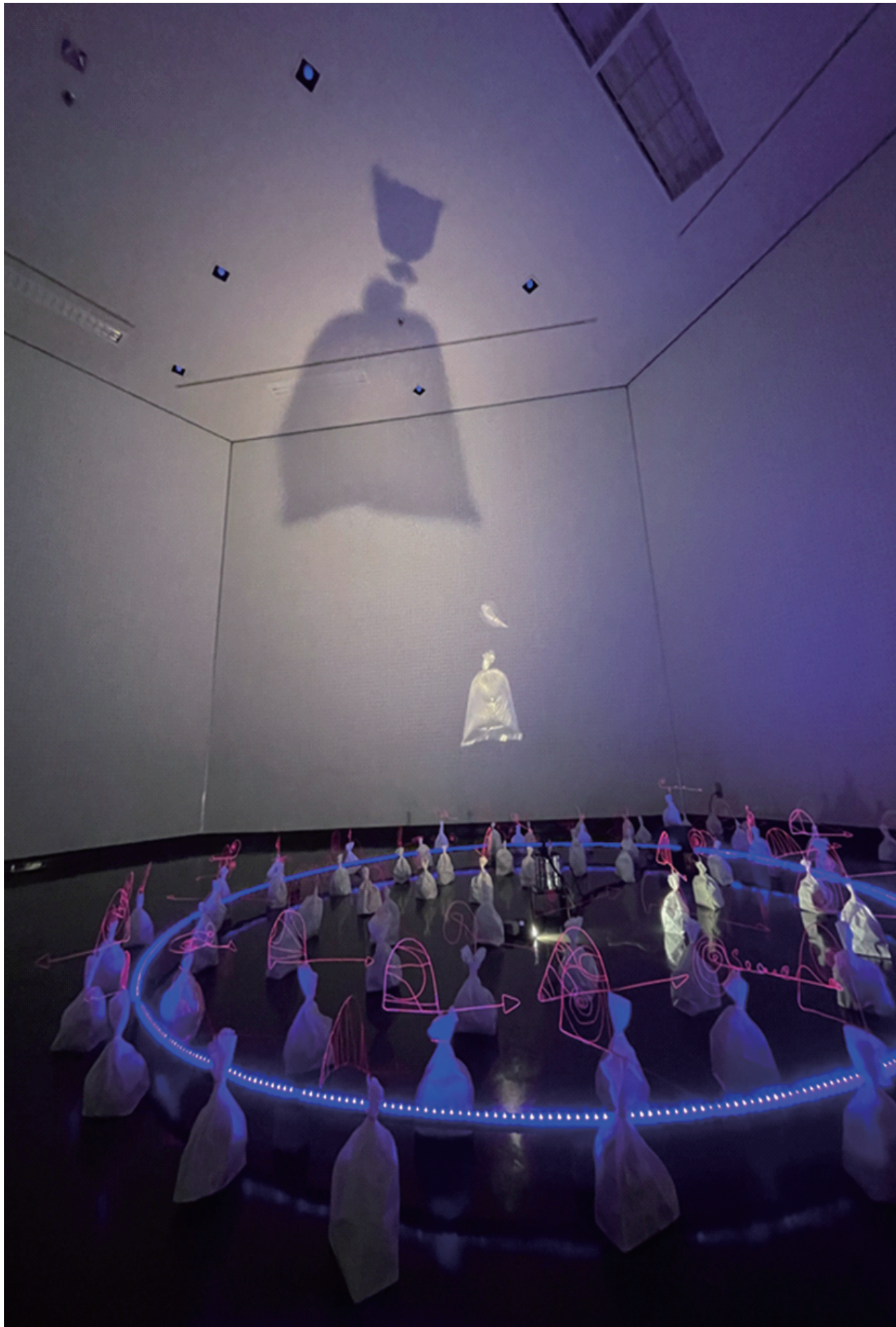
5、



A、



11,12*



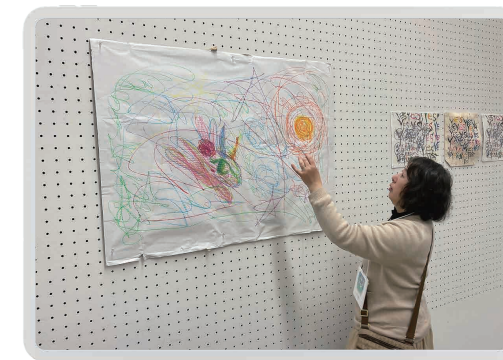
25K 風のキオク 雲のカタチは風向計（25K）を用いたインスタレーションで風の軌跡と雲の形を光と影で表現します

「君のたてがみも青いんだね。
もし君と仲良くなれたら、空はもう、ただの景色じゃなくなる。君を映し出す、特別なものになるんだ。
そうしたら、青い空だけじゃなく、夕焼けのオレンジやピンクの空も、夜の星空も、雨の日の空も、君のことを思い出させてくれる。
そうして、僕は空を見るたびに君を感じ、もっと空が好きになるんだ。」

「星と星を結ぶ蒼い光」～君と僕が出会う場所～
創作：suzu



制作実演「《風のカタチ》を描こう」



「風」を自由な線で表現し、その中から浮かび上がってくる形を見つけて、ひとつの作品に仕上げていきました。
観覧者のみなさんには、風がどのように“カタチ（作品）”として描き上がっていくのかを、制作の過程やワークショップを通して感じていただけたでしょうか？

『星の王子さま』から着想を得て生まれた物語。

そのひとひらを、絵に咲かせました。

ほんの少しでも、何かが心に響いていただけたなら嬉しいです。



これも
風のカタチ 空のキオク



書の館



《書の館》 2025 年：ブックアート群（計 55 点） 材質技法： フォトコラージュ、ゼラチンシルバープリント、本型木箱、アッサンブラージュ、フィギュア、メタル、手彩色、ニス仕上げ



ホモサピエンスはアフリカ大陸より始まり、中東、ギリシア、エジプト、ローマ、イスラーム時代と進みゆく。文字の発明とともに文明は深まり図書館となる。紀元前 300 年プトレマイオス一世のアレクサンドリア図書館、イスラームでは 830 年アッバース朝第七代カリフ、アマムーンがバグダッドに設立した図書館が知恵の館です。このことを知り、今回のインスタレーションを《書の館》としました。

《書の館》

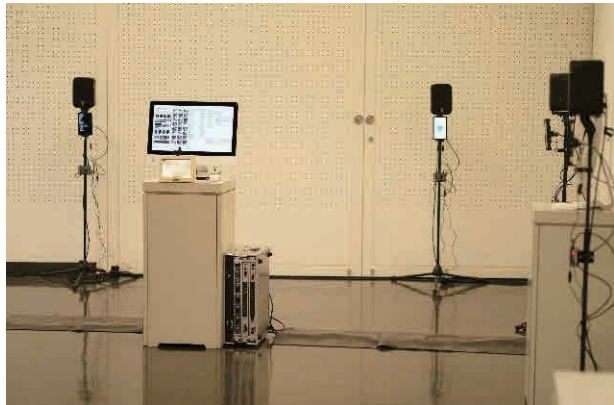
古代の図書館を偲び私の個人的な記憶の累積するブックアート群が魔法のジュータンに乗って空を飛ぶイメージです。（展示空間：奥行 250 x 幅 480 x 高さ 240 c m）



《屏風絵》 2024 年、181 x 360cm、ダンボール、細木、アクリル絵具

長年勤める所沢市陽明保育園での Xmas 会、アラジンの魔法のランプの舞台バックの絵として、イスラーム風景を描きました。絨毯に乗っている主役たち!!

電子音響ピープルプロジェクトは、2022 年秋から再始動し、2023～2025 年の 3 年間で本格的な活動を展開しています。2023 年には、BankART Station（9 月 30 日・10 月 1 日）およびゲーテ・インスティテュート東京（10 月 28 日・29 日）でワークショップを開催しました。2024 年には 6～8 月にスウェーデン・ドイツ・フランスでもワークショップを行い、9 月には ZKM（カールスルーエ・メディアアートセンター）でライブと公演を実施しました。さらに同年 10 月、ゲーテ・インスティテュート東京の「電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025 Special & Spatial ライブ」において、ドイツから、ルドガー・ブリュンマー、石井紘美、ベンジャミン・ミラーの各氏を招き、同氏による協働作品の日本初演を含む 2023 年以降の全協働制作作品を上演しました。今回、TAKARABUNE に展示した「Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Music Box」は、参加者の完成作品と集合写真をもとに構成したポートレート動画によるサウンド&ビジュアルインスタレーションです。電子音響ピープルプロジェクトが目指す、緩やかで可視化しにくいコミュニティを視覚的・聴覚的に表現しました。



電子音響ピープルプロジェクトが目指す、緩やかで可視化しにくいコミュニティを視覚的・聴覚的に表現しました。

電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025 関連企画

BankART Life 7 への参加 @BankART Station

- ・サウンドインスタレーション展示（2024.3.14-6.9）
- ・サウンドスケープ・サウンドモンタージュワークショップ（2024.4.21）
- ・ラウンジライブ（2024.5.26）

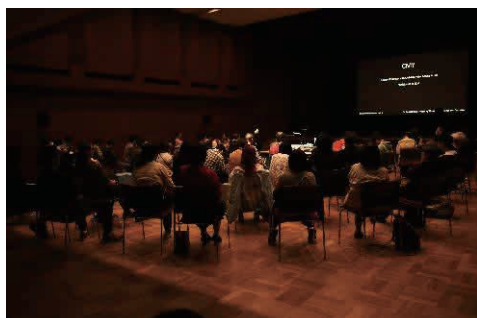
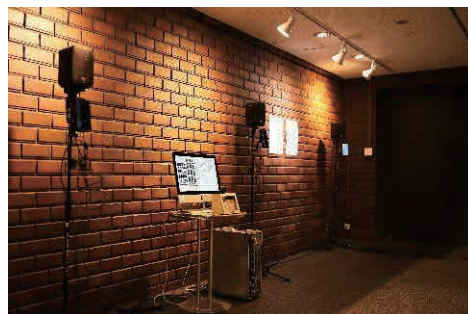
ワークショップ

- ・ワークショップ@ストックホルム舞台芸術美術館（2024.6.16）
- ・ワークショップ@ZKM(カールスルーエメディアアートセンター)（2024.7.20）
- ・ワークショップ@Festival Futura（2024.8.21-22）

ドイツ公演@ZKM（2024.9.13）

東京公演@ゲーテインスティテュート東京

- ・Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Music Box（2024.10.22-28）
- ・シンポジウム（2024.10.25）
- ・Spacial&Spatial Live（2024.10.26-27）



ワークショップ@BankART Station / with 高野大夢, 由雄正恒, 仲井朋子, 渡邊愛, 柴山拓郎

■電子音響ピープル：小田浩市, 桜田しょうき, 柴山あかり, 柴山るり, 時得里彩, 松 尚文, 武石みどり, 伊藤芳雄, 大矢祐嗣, 吉川信雄, 遠藤りな, 阿部尊美, 吉野香子, 吉野翼, 邱玉芬, みな, 小田雅昭, 小田裕子, 桜田みちよ, 柴山真人, 大村倫太郎, 岡田怜子, 染谷怜奈, 染谷優大, 神保玲子, 高田広美, 関根麻郎, 大澤貴一, 長谷川僚也, キョウコウ, 柴山祥子, 平賀りりあ, 塚本信昭, 柴山晴, 大村英史, 大村美保, 岡田あゆみ ■飛び入り応援ピープル：濱野峻行, 村田早苗, 滝沢葉子, 安田亜希子 ■サポートピープル：若林拓海, 小林慧悟, 渡辺亮太, 大野勇人, 高木空, 松本実樹, 本多慎吾, 天光快晴, 松本実樹, 中村陽, 本多慎吾, 鈴木怜奈, 大野勇人 ■BankART 1929 の皆さん

ワークショップ@ゲーテインスティテュート東京 / with 高野大夢, 由雄正恒, 新井聡真, 大野茉莉, 柴山拓郎

■電子音響ピープル：千原世+千原航, 都賀城太郎, 鈴木悠弘, 広沢純子, 邱玉芬, Tetsuto Ozawa, イゼン, Antonia Britt, 田中榮索, 増田涼香, 増田澄恵, 凡, kazu, 外川麻未, 福江一起, 加藤実実, Taku, 伏見香蓮, Takuya Shinkado, Anna Shinkado, 長岡律子, 高橋乃恵実, Sarah Lee, 高橋達二, Raiden Gunnarsson, Nomura Karin Gunnarsson Nomura ■サポートピープル：山根 吾朗, 菅谷凌, 天野大介, 岩橋未有, 都留尚歩, 増渕長慶, 中村陽, 松本恭祐, 早田淳平, 本多慎吾, 松本実樹, 小松匠, 西野俊, 中窪涼介, 天光快晴, 鈴木怜奈, 真中大徳, 五十嵐万裕, 柿崎瑞貴 ■Goethe Institute Tokyo の皆さん

ワークショップ@BankART Life 7 / with 柴山拓郎

■電子音響ピープル：松岡尚史, 樫村和美, 穴澤宏美, 水野谷帆風, 神保玲子, 塚本信昭, 堀本響, 桑原健太郎

ワークショップ@スウェーデン舞台芸術美術館 / with アンドレ・ホルザブフェル, デレク・ホルツァー, ヘンリック・フリスク

■電子音響ピープル：エリック・ティヴェニアス, イナ・フリード・フライデル, カリズ・ノードルフ, ルオクシ・ガオ

ワークショップ@ZKM with / ルドガー・ブリュンマー, 石井紘美, ベンジャミン・ミラー

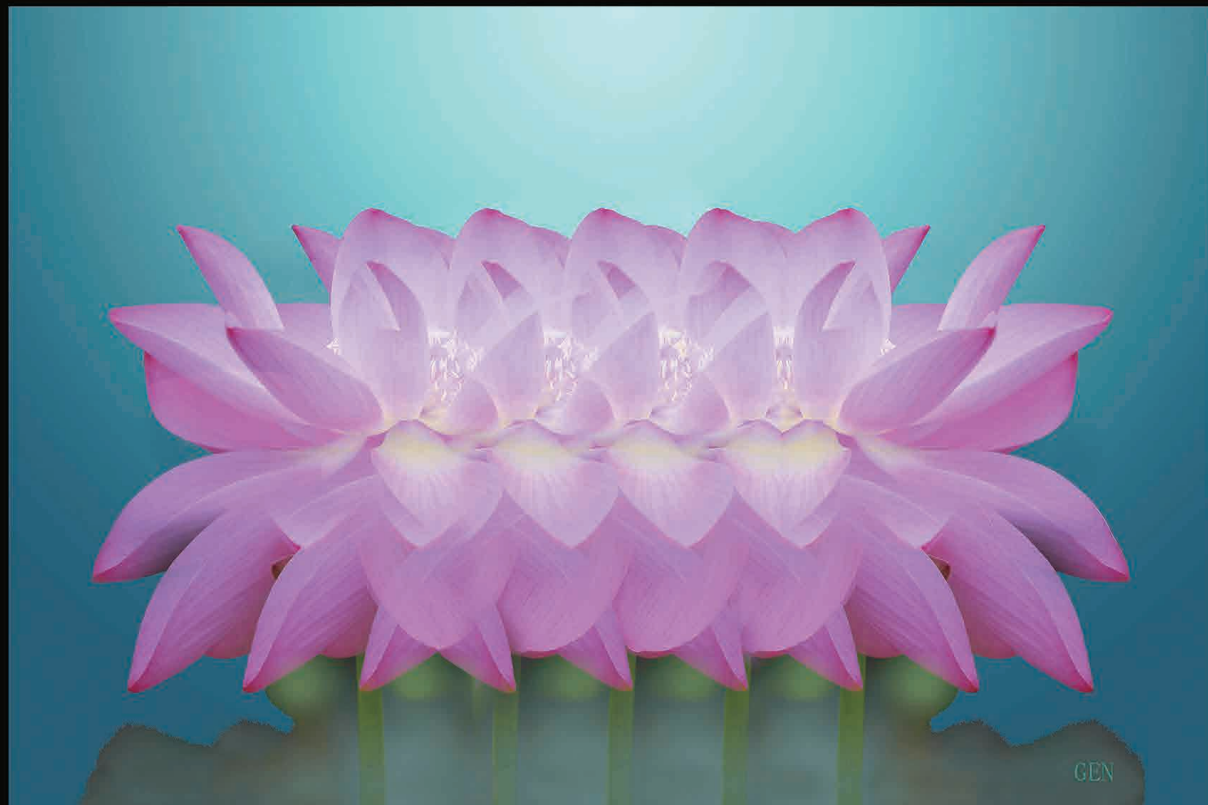
■電子音響ピープル：Katsu, Mia, Daichi, クリスチャン, ヨーヨー, 有馬桃, クハレク未知, リン, ポステット育三郎, ポステット保奈美

ワークショップ @Festival Futura / with ナタナエル・ラボワソン, アニエス・ボワソン, ヴァンサン・ロブフ, 成田和子

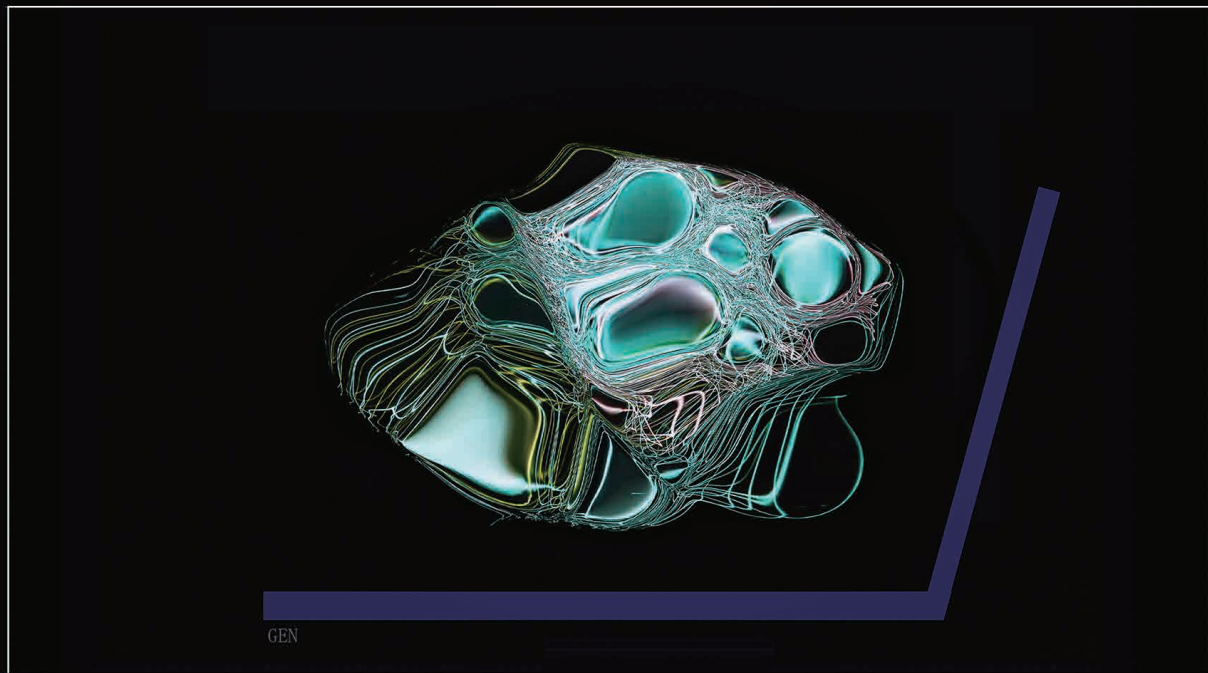
■電子音響ピープル：ヴィルジーニルナル, ジャヴィエ・オルト, パオロ・カスティリーニ, クリス・シャネット, 樋口浩子, ジュリー・ゲーニュ (jg.ch-j), ベルナル・ルノー, デルフィーネ・ドラ, C3 S R, 藤本芳樹

■主催：電子音響ピープルプロジェクト 2023-2025 実行委員会 ■協力：BankART1929、ゲーテインスティテュート東京、ZKM | Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe ■助成：アーツカウンシル東京（芸術文化魅力創出助成）、かけはし財団、朝日新聞文化財団、科学研費基盤研究(C)先駆的芸術音楽の多様な人々との共創を目的とした創造的フィールドのデザイン(19K00227)、幾何学的関係に基づく音律統合理論の構築による空間的サウンドインスタレーション制作(20K12126)、東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」 ■後援：先端芸術音楽創作学会、Saitama Muse Forum (SMF)、日本電子音楽協会 (JSEM)、SuperDeluxe ■運営：東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系「作曲・音楽文化研究室」 ■デザイン：(有)アームズ

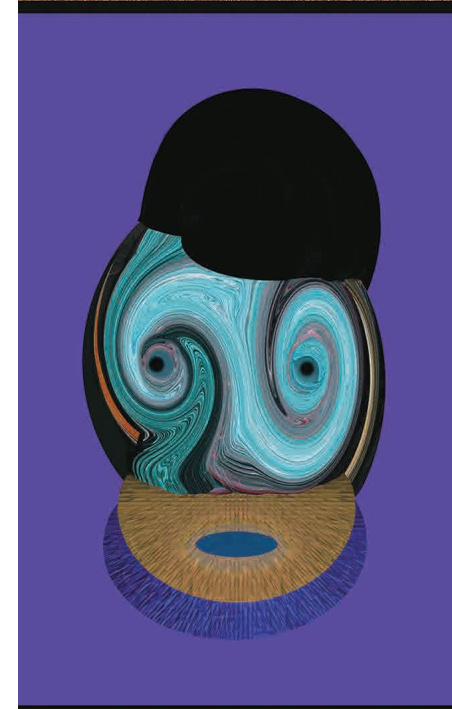




ラインダンス



深海の原石



TAKARABUNE2025

題名 モドキ

「モドキ」とは似て非なるものなり。
スイングショット画像を使いPCで制作。
古墳時代の埴輪のなかに、
もしかしてこんな「顔」が?!

作品制作にまつわるエピソード
コロナ過で外出が難しくなったころ
PCでスイングショットの「宝物」を開き
あそんでいてひらめいた。時間をかけて
切り出し形を整えてうまれたのが
「モドキ」だった

SMF

TAKARABUNE2025 風のカタチ 空のキオク SMF

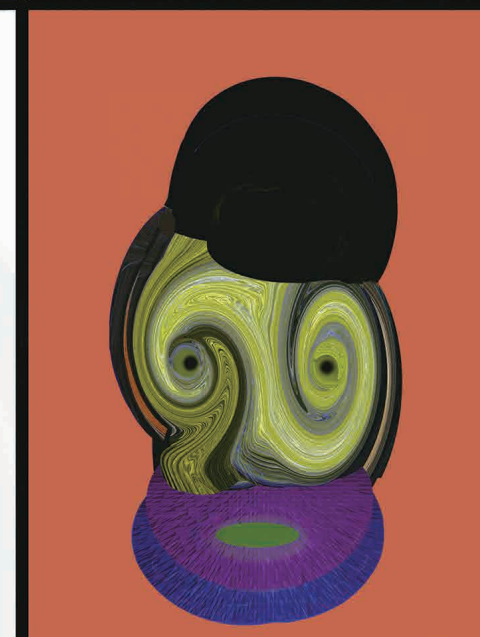
風のカタチ

風のカタチは目には見えないが・人間(ひと)が
つくる「風」は五感で感じる。
私は作品を考えるとときに多用な「風」をかん
じている。でも迷いがあるときに感じる「風」
は冷たく壁のようだ 凍てついた壁からぬけ
だして思考をカタチに出来たとき、
何かで満たされるのを感じる。

空のキオク

なぜか晴れた日が記憶に残る
1943年ころ渡良瀬川の川原に飛行機が不時着した。
おやじに肩車されて見ていた。主翼が二枚だった
通称赤とんぼのことを。よく晴れた青空だった。

1964年の10月10日の朝
千曲川の河畔「R117」を長野市に向かって
車を走らせていた。カーラジオから、東京
の空は抜けるような青空と聞こえた。
まるで同じ空をみているような気になった





今回のテーマに合わせた表現は何かと考えた結果、SMFのロゴに使われている「かざぐるま」のデザインは、私にとってはまさにカタチであり、キョクでもある。2008年から使われているこのカタチを17年の時を超え、キョクを呼び覚ましてみました。

カタチ キオク



に座して する



出会わなければ 始まらなかった
創めなければ 初まらなかった
カタチは イスかもしれない
座れる かもしれない

Enjoy Life



(C) Makoto Nakamura/photo

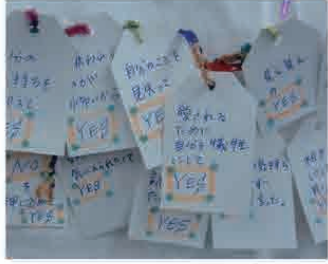
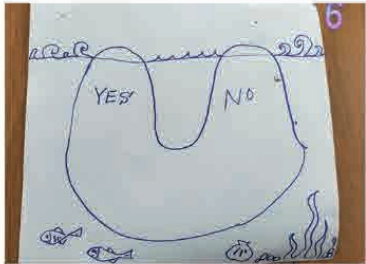
はた みき「ときどきドキドキ同意Tシャツ」
Miki HATA, “Sometimes throbbing thumping consent T-shirt”



制作年	2025
制作日数	1ヶ月+1時間 1months + 1hours
材質	水彩インク、100%綿素材のTシャツ、紙、毛糸 Watercolor ink,100% cotton T-shirt,paper,wool

「風のカタチ 空のキオク」と出展作品の関わり	
生きることは、変わり続けること。 あなたは、毎日生まれ変わっています。 身体だけでなく、気持ちも変わっていく。 その瞬間、その瞬間、気持ちは揺れ動くものです。まるで、風のように。 空に浮かぶ雲のように。 To live is to keep on changing. You are reborn every day. Not only your body but also your feeling changes. Every moment, your feeling fluctuates. Like the wind. Like the clouds in the sky.	
作品制作にまつわるエピソード	
あなたが決めた YES は、あなたの尊厳を守ってくれますか？ あなたの YES には、グラデーションがあります。 私の YES にも、グラデーションがあります。 あなたの YES と NO はどちらも、同じくらい大切で尊いものです。 あなたの人生を決める権利は、あなたにあります。 決定権は、あなたにしかないのです。自然体で生きましょ。 “私の選択”に、自由になりましょ。全ての未来は、あなた次第です。 Will the YES you decided protect your dignity? Your YES has a gradation. My YES also has a gradation. Both your YES and NO are equally important and precious. You have the right to decide your life. Only you have the right to decide. Live naturally. Be free to “My choice”. All futures depend on you.	

気持ちのゆらぎがあって良い。 刻一刻と、人の気持ちは変化するものだから。 周りの状況が「YES だ」と言っている。 たとえ“YES”の空気が漂っていても。最後は、自分の心で決める。 目を閉じて、いっとき外部を遮断しよう。 目を閉じて、「本当に私は YES なのか」、心の声を聞いて。 心の声（自分の中にある内なる言葉）に従う。 私の心の奥の声は、私しか聞けないのだから。 心の声に従って行動すれば、結果がどうあれ、 たとえ失敗しても、きっと後悔は残らないはず。 “YES の気持ちのゆらぎ”に見える化しました。 I think it is good to have mood swings. By moment, people’s feelings change. Even if the situation around me says “Yes”. Even if there is an air of “Yes”. In the end, I decide with my own heart. Close my eyes and shut off the outside for a moment. Close my eyes and say,”Am I really Yes?” Listen to my heart. Follow my heart’s voice(inner words in myself). Only I can hear the inner voice of my heart. If I act according to my heart’s voice, no matter what the result is, even if I fail, maybe I will not have any regrets. I made the “mood swings of Yes” visible.
--

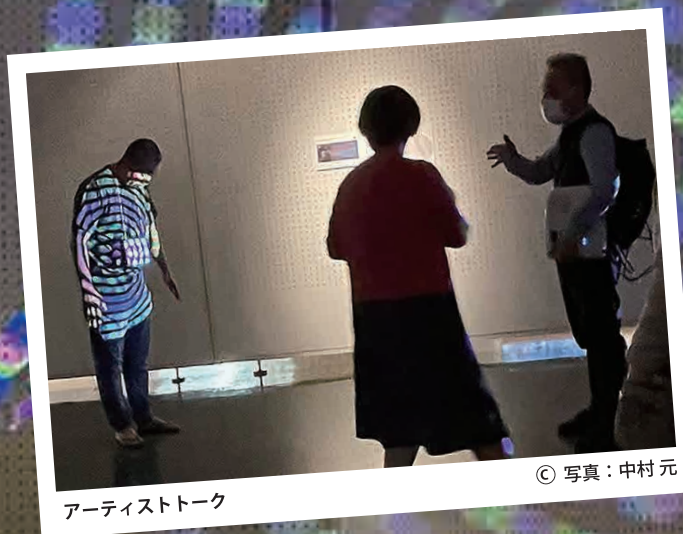


0: 制作前、1: 実演中、2: 実演直後（37個のYESを描く）、3: 来場者14名に"うすめ液"を垂らしてもらう、4: 3/30,13時33分,作品完成
5-1,5-2: 3/21追加展示、6: YESとNOの氷山の図、7: YESカード55枚の一部、8: NOカード19枚の一部、9: 3/24,同意を着用してみる
10: 4/4,湯船に浸けてみる、11: 4/4,湯船から上げた状態、
12: 4/4,洗濯1回目、13: 4/8,洗濯2回目、14: 4/11,洗濯3回目、15: 4/15,洗濯4回目、16: 4/18,洗濯5回目

Performance Art

2025/03/19~03/23 5日間

時をテーマにしたデジタルアート作品を
プロジェクターを使って来場者の体に
投影し「花風を纏う」体験を共有できた

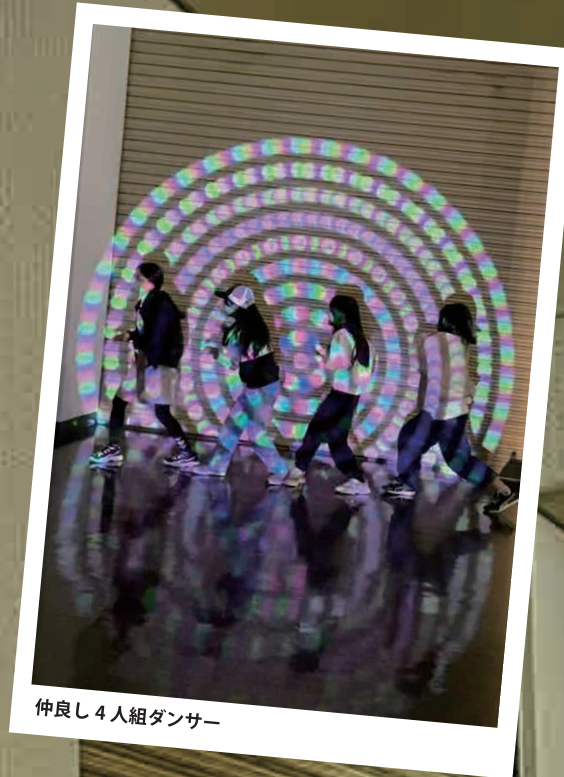


アーティストトーク

© 写真：中村元



仲良し2人組



仲良し4人組ダンサー



可愛い体験者

<https://www.waerbt.com/>
デジタルアートを自由に持ち歩くライブ
Projection Art Performance

今回も展覧会テーマに悩みました。展覧会テーマ「風のカタチ 空のキオク」と
作品テーマ「1秒の視覚化」がマリアージュされた瞬間、新たな作品に出逢えた

記録 YouTube



私が一番きれいで心に残っている空を形にしてみようと思いました。

その後に訪れた予期せぬ知らせによって見える形は変わったのか、それともそのままだったのか？

鏡をのぞくとそこには満月が...



上尾でカフェの空き空間と空き時間を活用して上尾アートセンターという団体活動が 3 年目を終わりました。その活動の際に作成した配布物などをアーカイブとして集めて資料として『THE archive 』in the Ageo Art Center と題して 2024 年の 1 年間の活動の記録を振り返る記録展示となりました。その中でも代表的な活動を中心に説明いたします。

◆『喫茶芸術領域構築』展◆

3 年目に入り継続して行っている、月替わりアートメニューと称して、主に平面作品の展示を行います。いろいろなアーティストの作品を月替わりで楽しんでもいただくプログラムを実施いたしました。当日の会場には展示のための DM を展示配布を行いました。

◆『上尾トリエンナーレ』と『上尾ビエンナーレ』◆

『喫茶芸術領域構築』展の作家さんたち全ての作品が最後にまとめて鑑賞できる機会を設けました。2024 年はトリエンナーレ、ビエンナーレは共にシーズンオフでした。来年はトリエンナーレ、ビエンナーレが同時に来るかたちのため 2024 年と 2025 年の作家の作品がまとめて鑑賞できる形になります。

◆上尾アートセンター所蔵作品の展示◆

『世界一黒い絵』を久しぶりに披露いたしました。上尾の地元企業コラボから生まれた作品です。世界一黒い塗料と世界一黒い布を使った作品を上尾アートセンターで所蔵しています。光陽オリエントジャパンさんに協力していただき作品となっています。

◆対話型鑑賞◆

2024 年から展示作品をよりたのしく鑑賞してもらうために、対話型鑑賞に取り組みました。作品を一方的に解説をするのではなく、鑑賞者との対話を通じて作品の本質に主体的に触れられることを目指しました。

◆その他の活動の紹介◆

『ナイトギャラリー』毎週水曜日閉店後の店内を開放してじっくりと作品を鑑賞するを実施。色々な方との出会いの場にもなりました。

『21 時の家カレー』21 時に出来上がる家カレーを食べる企画を実施。カフェ営業時間にもご注文いただけます。

『3 月企画展示』コラージュから浮き出た模様を T シャツにドローイングする平面作品の展示を実施しました。

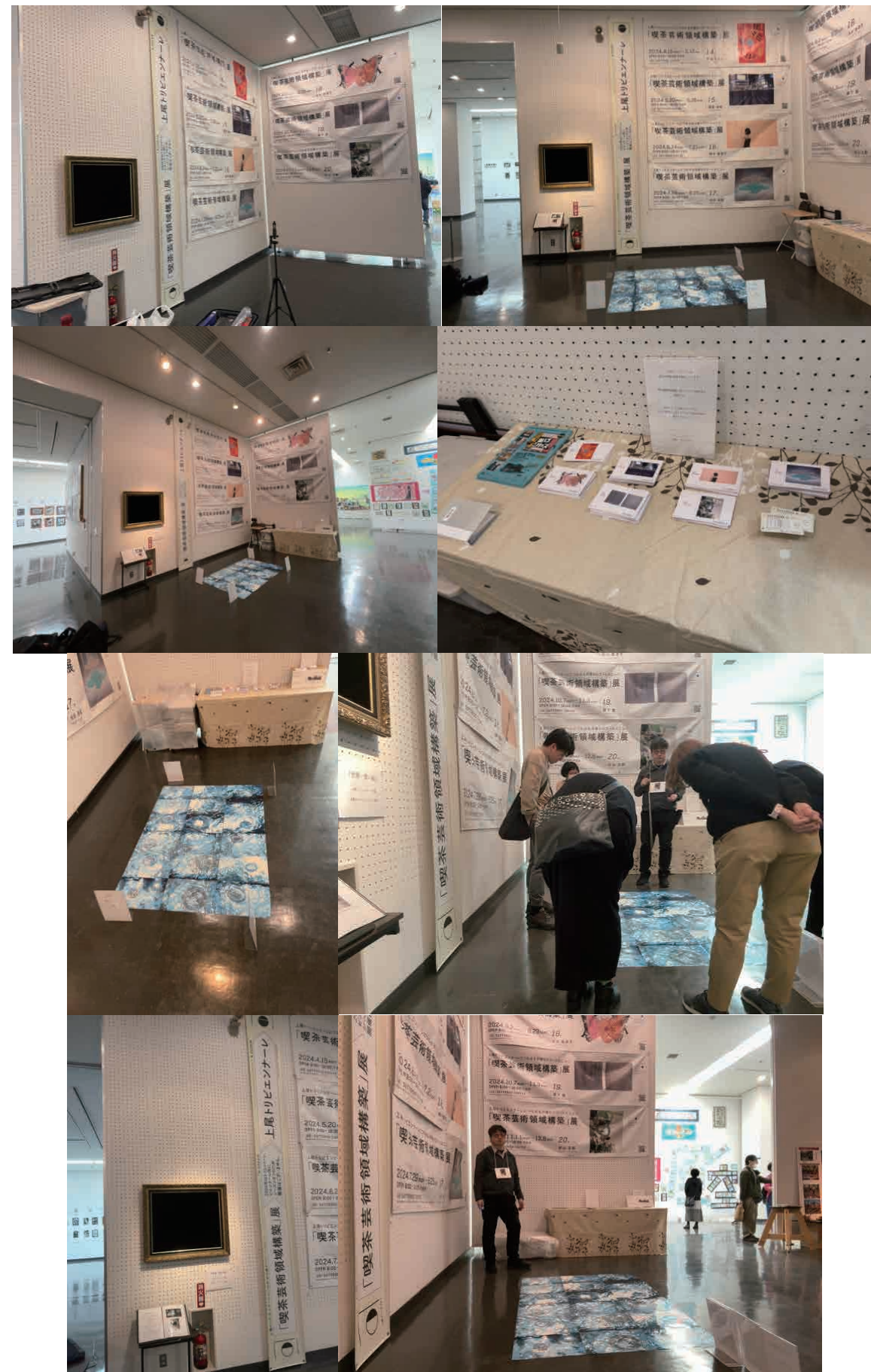
『上尾ジャズフェスティバル』上尾で活躍するブルーカメレオンを中心に大人が楽しめるジャズフェスティバルを開催しました。

『成長する絵画』展。上尾市内の障害者のお子様の絵画教室の展示機会の創出に協力しました。

『カフェで耳散歩』上尾市在住の朗読家とカフェでおしゃべりする感覚で朗読を鑑賞する企画を実施いたしました。

年に一度の交流会など実施。サードプレイスとしての役割を模索した年でした。

【ビジョン】ーアートを通じて情報を発信し人が集まる場をつくる。 森久憲生(上尾アートセンター)



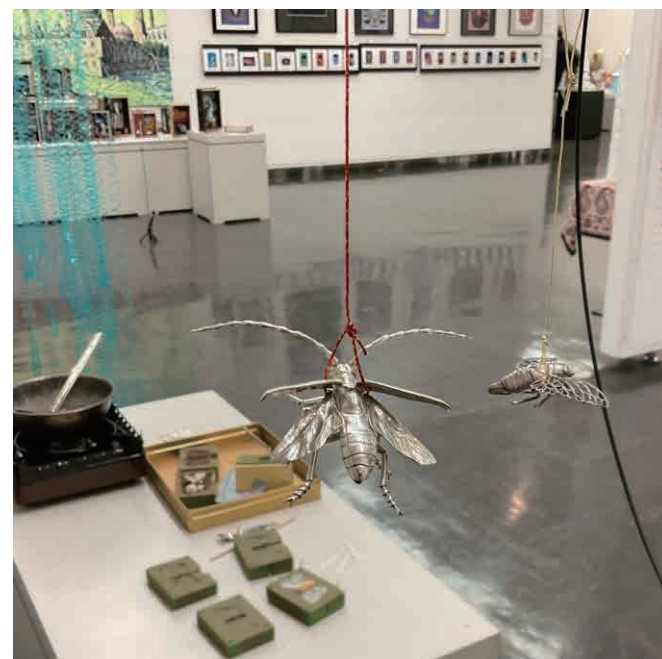
子供の頃、飛んでいる虫を見るとドキドキわくわくした。そんな心とは裏腹に、空を飛ぶ虫の背景には静寂な青い空が広がっていた。それが私の空のキオクである。青空の下、風が吹く中を飛ぶ虫たちを、モビールで表現した《そらのきおく》。



©中村 元



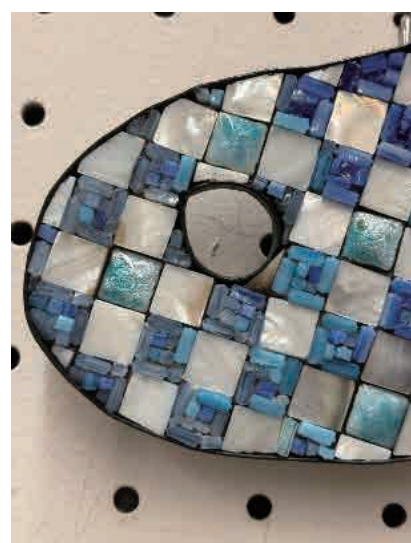
©中村 元



夢のシートでは、ワークショップ「MOMAS で蝶をつくろう」を提案した。空を舞う蝶を追いかけた思い出を形にし、空のキオクとして心に刻む。簡単キッチン鑄造の制作工程を展示した。



モザイク作品『雲紡ぐ』 シェル、ガラス、七宝



雲が空に浮かんでいると眺めて何かに想像したりするのが楽しく
 雲のカタチをベニヤ板に自由に手書きしカットして
 穴を開けてみたり大きさを試してみたり製作した。
 市松模様は和文様。 格子状に素材を置き
 青のグラデーションをつけたら光と影が出来たようになった。

モザイクを作るのがとても楽しい。
 いろいろな素材を組み合わせで表現することで
 新しい発見があります。

作品に使用した素材は、シェルタイル、七宝、ガラスタイル。
 貝殻の自然が作り出す光沢や色のトーンを考えて
 雲が明るく見えたり暗く見えたりする様を表現できたらと思った。
 七宝は青の顔料を混ぜ合わせ、
 明るい青色から暗い青色が幅広く出来たらと、
 2 cm角の大きさに 100 枚ほど焼いて作ってみた。
 素材の異なるパーツを組み合わせ質感の違いも面白く感じ、
 それぞれのグラデーションと光沢感が
 織りなす調和を楽しみながら制作した。

山口素子

TAKARABUNEと夢のシート (エントリーシート)

TAKARABUNEは、美術、音楽、ダンス、建築、文学などジャンルの区別なく、所属や経歴、プロ、アマを問わず、誰でも参加可能な場だ。展覧会でなく「場」としたのは、それぞれの多様な「アートにまつわる夢を共有する場」として、始まったからだ。

参加希望者に課されるエントリーシート(夢のシート)は、その名残りだが、美術館での開催を重ねる中で、実現性にとらわれない自由な夢を記したシートは大幅に減少し、展示する作品に関する説明的なものが多くなった。通常の展覧会との違いもはけてきたようだ。

そこで今回から、エントリーシートを「夢のシート」(アートにまつわる各自の自由な夢、プロジェクトの素)／「報告シート」(夢を追う活動の実施報告)／「作品シート」(作品を通して見る夢、夢が可視化された作品)の3種に区分することとした。

変更の意図は十分に伝わらず、アートの夢とかプロジェクトについて思いを巡らしてくださったのはおそらく4分の1以下で、大半が想像通り「作品シート」であった。こうした現状を踏まえて「アートの夢を共有する場」をどのように継承し豊かにしていくのか、関係者のみなさんからさまざまなアイデアをいただき、次回の展開につなげていきたい。

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク



アート作品を作るためには、制作するための技術が必要です。絵を描く技術、彫刻を作る技術も大事ですが、現代アートでは作品を作り出す際の「考え方」や「発想」がより大事です。見る人の意識を変革する力を持つ、或いは固定概念を打破するようなアート作品を作りたいと思っています。

夢のシート	題名：絵のような写真 錯視陶器	氏名：石崎幸治
-------	-----------------	---------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク

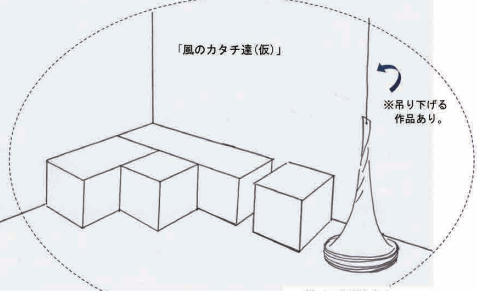




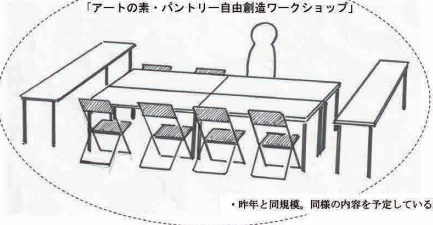
種別：作品シート	題名：風と空を感じる抽象画	氏名：絵手紙浦和会
----------	---------------	-----------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク





・昨年と同規模を想定している。



・昨年と同規模。同様の内容を予定している。

種別：作品シート	題名：空気境界	氏名：加藤典子
----------	---------	---------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク



風は目に見ることが出来ない。始めて物に触れて動き、それを通して私は風を感じるのです。風によって波が起る。音になり、いろいろな自然現象と作り出している。私はそのことを動くこと、揺る」と考えました。PETボトルを素材に長い間創作してきました。今回はPETボトルを紐状にハサミで切って、棒に巻きつけ、熱で固くラセン状にしました。それを上部から吊り、揺れるラセンの面白さを風に遊ぶと言うことになりました。空のキョクとして雲をラセンで作り出しました。

種別：作品シート	題名：揺れる青と雲	氏名：金原京子
----------	-----------	---------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク



ミノムシのベガとアルタが空にあらがれて風に乗り物語



この子達が空を飛ぶことを夢見て頑張る漫画のパネルを制作します

種別：作品シート	題名：Vega and Alta 『ベガとアルタ』	氏名：クリスタルトークス
----------	---------------------------	--------------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク





種別：作品シート	題名：時が風に乘って空に残したものは？	氏名：シミズフローラルデザインスクール 清水和乃
----------	---------------------	--------------------------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク



古の野良文化を検証し、100年後の未来に向け創造性を発揮する事業として「里山農」を提唱し実施。

実施日： 場所：さいたま市「さぎ山」、延命寺 2. 2024年11月2日(土)、3日(日)、4日(月・祭日)、9日(土)、10日(日)

報告プラスアルファによる展示内容

1. 「BORO-野良の声」：池田照雄コレクションによる野良着インスタレーション/5点を天井吊り
2. 「大地の呼吸 生物の自然循環の時代へ」：新築建築製造機：焼き物展示2組 バイオ炭とニール製品品 30枚 / 野良ワークショップチーム、衛守和佳子、吉田直久、長谷川千賀子
3. 「ダイダラボッチの足跡」：動画 プロジェクターで天井に照射 / イジマ フヒト
4. ファイバー作品：壁面付随空間 4m×2m / 柳井剛雄
5. 「Sagiyama Dome」：スタンド込みで直径3m 竹作品 / 石井国義
6. 動画「野良の藝術2024」 モニター / 本多慎吾
7. 動画「Sukinkutsu」 池 モニター
8. 「露布団へのオマージュ」：185×63×(H)45cm / 長谷川千賀子
9. 内容パネル展示 壁面4m

パズルオニオンズ

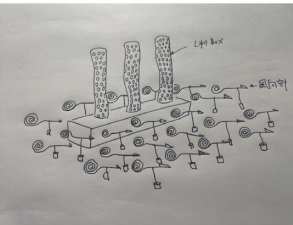
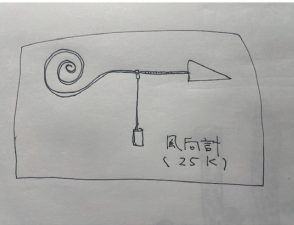
A. 踊り：堀田麻央
B. 詩の朗読：高橋良知
C. モダン・ダンス：彩のくに創作舞踏団 藤井香
出演：海保文江、佐々木香野

インスタ/HP

種別：報告シート	題名：野良の藝術2024「創造の根源を考える」	氏名：社会芸術/ユニット・ウルス
----------	-------------------------	------------------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキョク





25K 風のキョク 雲のカタチは、ライトボックスと風向計 (25K) を用いたインスタレーションで風の軌跡と雲の形を光と影で表現します。

種別：作品シート	題名：25K 風のキョク 雲のカタチ	氏名：STUTA (三友 周太)
----------	--------------------	------------------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



「空はね、いつもそこにあるものだから、僕にとってはただの景色なんだ。空は僕に何も思い出させてくれない。それは、少し虚しい感じなんだ。でも、君は青いたてがみを持っている。君と仲良くなれたら、空はただの景色じゃなくなる。君を映し出す、大切な存在になるんだ。そうしたら、青い空だけじゃなく、夕焼けがオレンジやピンク色に染まる空も、夜の星空も、君のことを思い出させてくれる。そして、僕は空を見るたびに君を感じて、空を愛するようになるんだ」

空を「ただの景色」としか見ていなかった男の子が、青いたてがみのユニコーンと出会い、空が特別な存在に変わります。青空、夕焼け、星空と移り変わる空の色が、ユニコーンとの絆や記憶を心に映し出すのです。作品は星の王子さまにインスパイアされて生まれたこの物語を通して、何気ない景色が感情や記憶を呼び起こす瞬間の尊さを描きました。風や空が記憶を運び、日常の中で新たな意味を見つける姿を表現しています。

種別：作品シート

題名：君のいろ

氏名：SUZU

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



壁面画サイズ
1800×2600mm
約50〜100名ほどを
壁面画の前と並べて
展示したいです

「私の心の空」870号
アクリル絵具の筆で描いた
で「空」のイメージを
手は図書館への思い
か風に乗り空の記憶を
私のアクリル絵具の
筆で描いた。私の
絵画は、空の記憶の
果てです。

種別：作品シート

題名：書の館

氏名：出店久夫

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



TAKARABUNE 2025 ポスターを3部構成でデザインしました。
SMFが2008年に「アート電巻フェスタ」のタイトルでスタートしたプロジェクトの中で、「風車（かざぐるま）」のインсталレーションからヒントを得てデザインしたSMFのロゴの風車をメインに配置しました。

「風のカタチ 空のキオク」はその風車と近年のTAKARABUNEの夏のイメージを重ねたタイトルです。「風」も「空」も常に変化し続けて一定のイメージにはとどまらないことから、ポスターも3部構成で表現してみました。

例えば、「朝、星、夜」。「昨日、今日、明日」。「過去、現在、未来」の風と空は異なるようにカタチを変え、キオクを辿り、自由自在に変化し続ける様を表現しました。

種別：作品シート

題名：TAKARABUNE 2025 ポスター

氏名：中村 隆

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



『23』規格-35・36・37miniature model
1/10 sizeを箱を立てカタチにする

絵の上に置いた

座れるカタチ

イス3席

キオクをアナタに

種別：作品シート

題名：カタチに座してキオクする

氏名：西尾 路子

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



「Parallel Music Box」は、作品上部のハンドルを回すことで、電子音響音楽の創作ワークショップ参加者全員の約90個の完成作品をリアルタイムで断片化しリミックスします。ハンドルを回す速さや方向、回す際の瞬発力の大きさで、リミックスに多様な変化を与えることができます。ハンドルを回すことで稼働します。このオルゴール的な機能は、このインсталレーションにインタラクティブな要素を付加する試みであり、電子音響ビープルを「聞く」ための装置ともいえます。

「Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere」は、ワークショップ参加者全員の完成作品と集合写真から抽出したポートレートから、「電子音響ビープル」のコレクティブポートレートを作成しました。この作品で電子音響ビープルプロジェクトの全体性を可視化/可聴化することを試みました。ハンドルが停止中に稼働します。

「電子音響ビープルプロジェクト」とは？
「電子音響ビープルプロジェクト」は作曲家・サウンドアーティストである嵯山拓郎が立ち上げた、すこし実験的で、多くの人からしばしば「難解」と受け止められてしまう電子音響音楽を、より多様な人々と共に創る参加型プロジェクトアートです。このプロジェクトは、参加者のみなさんを、音楽の受け手としてではなく、少しヘンテコな音楽を自ら創るアーティストとして、共にその体験を楽しむことを目指しています。

種別：作品シート

題名：Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Music Box

氏名：電子音響ビープルプロジェクト
・東京電機大学「作曲・音楽文化研究室」

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



風のカタチ

風のカタチは目には見えないが、人間が作る「風」は五感で感じる。私は作品を考えるときに多用な「風」を感じている。でも、迷があるときに感じる「風」は、冷たく壁のようだ。凍てついた壁からぬけだして、思考をカタチに出来たとき、なにかで満たされるのを感じる

空のキオク

なぜか晴れの日が記憶に残る
1943年ごろ渡良瀬川の河原に飛行機が不時着した。
おやじに肩車されて見ていた。主翼が二枚だった通称赤とんぼのことを。
よく晴れた青空だった。

1964年の10月10日の朝。
千曲川の河畔「R117」を長野市に向かって車を走らせていた。
カーラジオから、東京の空は抜けるような青空と聞こえてきた。
まるで同じ空を見ているような気になった。

種別：作品シート

題名：群れる

氏名：中村 元

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



気持ちのゆらぎがあって良い。
刻一刻と、人の気持ちは変化するものだから。
周りの状況が「YESだ」と言っている。
たとえ「YES」の空気が漂っていても。
最後は、自分の心で決める。
目を閉じて、いつか外部を遮断しよう。
目を閉じて、「本当に私はYESなのか」、心の声を探る。
心の声（自分の中にある内なる言葉）に従う。
私の心の奥の奥は、私しか聞けないのだから。
心の声に従って行動すれば、結果はどうあれ、たとえ失敗しても、きっと後悔は残らないはず。

“YESの気持ちのゆらぎ”を見える化しました。

I think it is good to have mood swings.
By moment, people's feelings change.
Even if the situation around me says “Yes”.
Even if there is an air of “Yes”.
In the end, I decide with my own heart.
Close my eyes and shut off the outside for a moment.
Close my eyes and say, “Am I really Yes?”
Listen to my heart.
Follow my heart's voice(inner words in myself).
Only I can hear the inner voice of my heart.
If I act according to my heart's voice, no matter what the result is, even if I fail, maybe I will not have any regrets.

I made the “mood swings of Yes” visible.

種別：作品シート

題名：ときどきドキドキ 同意Tシャツ
Consent T-shirt(sometimes. My heart is racing)

氏名：はた みき Miki HATA

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク



Carry a PROJECTOR & Solar Energy Power

Performance Art

2025/03/19~03/23

The Museum of Modern Art, Saitama

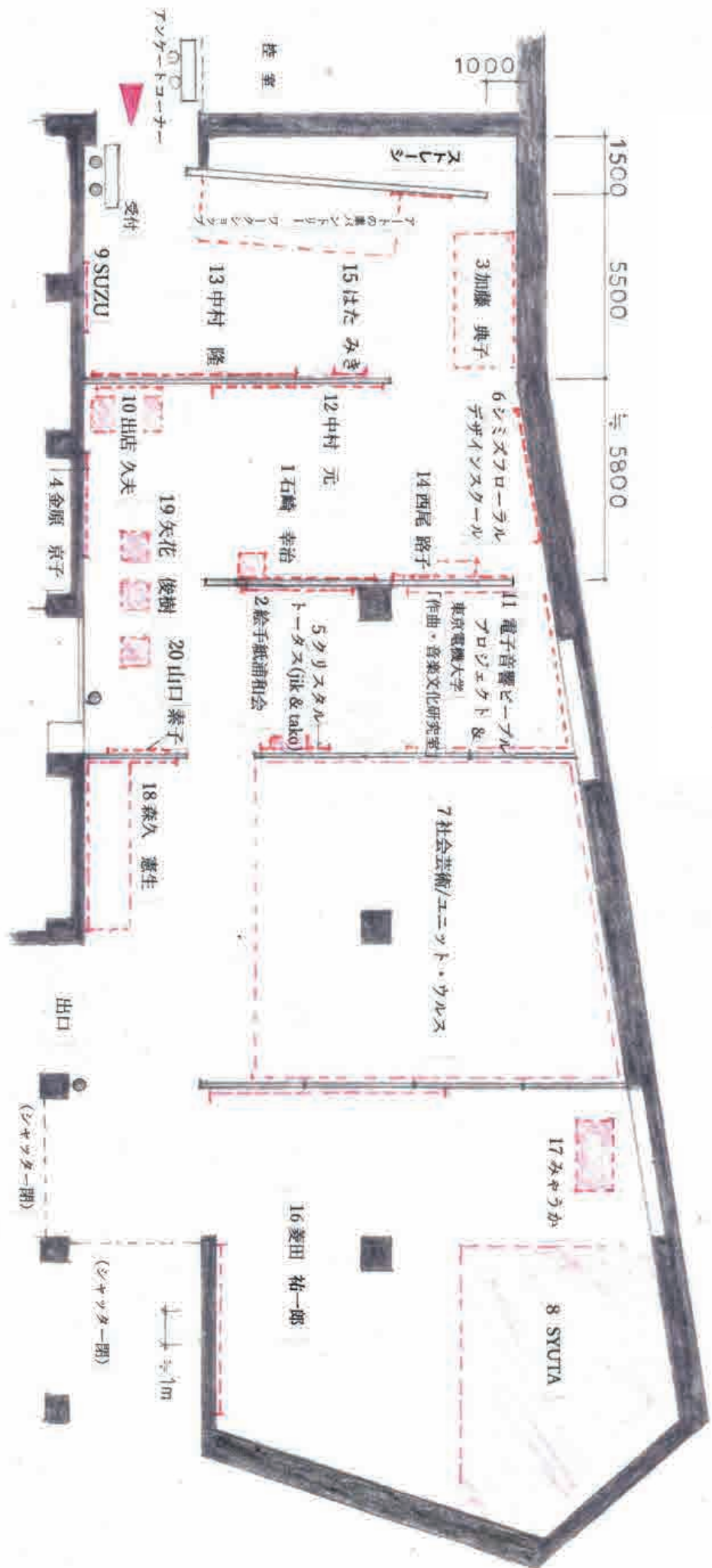
Yuichiro HISHIDA

デジタルアートを自由に持ち歩くパフォーマンスアート

種別：作品シート

題名：RECORD_T51

氏名：藤田 祐一郎



- 1 石崎 幸治《絵のような写真 錯視陶器》 ■2 絵手紙浦和会《風と空を感じる十人十色展》 ■3 加藤 典子《空気界隈》 ■4 金原 京子《揺れる青と雲》
■5 クリスタル・タス (ik & taco)《Vega & Alta 「ベガとアルタ」》 ■6 シミズフローラルデザインスクール《時が風に乗って空に残したもののは??》
■7 社会芸術/ユニット・カリス《野良の藝術 2024「創造の根源を考える報告展示」 ■8 SYUTA《25K 風のカタチ 雲のカタチ》
■9 SUZU《君のいる》 ■10 出店 久夫《書の館—古代の図書館を偲び個人的な記憶の累積するナックアート群による展示》
■11 電子音響ビジュアルプロジェクト&東京電機大学文化研究室《Denshi Onkyo People in Imaginary Sphere with Parallel Musicbox》
■12 中村 元《写真 中村元の世界「モビキ」》 ■13 中村 隆《TAKARABUNE 2025 ボスター》 ■14 西尾 路子《カタチに座してキオクする》
■15 はた みき《ときどきドキドキ同意Tシャツ》 ■16 菱田 祐一郎《RECORD_T51 花風》
■17 みやうか《空と知らせと夜の月／(夢のシート)美術館でなら着れるかも?ファッションショー》
■18 森久 憲生《上尾アートセンター》《The archive 2024》in the Ageo Art Center》 ■19 矢花 俊樹《そらのきおく／(夢のシート) MOMASで蝶をつくらう》
■20 山口 素子《雲紡ぐ》 *園中の数字は出品リストのナンバー ●は受付・監視ポイント

by H.Nagano

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク

SMF

Small Museum of Fine Arts

【夢のシート】

今まで展示した作品を身に着けてもらってファッションショーをしたい。

この宝船展の展示会場をランウェイに見立ててショーを行う。

種別：夢のシート	題名：美術館でなら着れるかも?ファッションショー	氏名：みやうか
----------	--------------------------	---------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク

SMF

Small Museum of Fine Arts

上尾アートセンターの森久といいます。上尾アートセンターの2024年の活動の紹介を展示形式で皆さんに知ってもらいたいと思っています。現在はカフェの空き時間と空き空間を活動の拠点として活用させていただきながら、いろいろな企画を行っています。文化芸術を通して情報を発信し、人が集まる場を作るをビジョンに展示・美演など色々発信中です。

出展予定

○『喫茶芸術領域構築』展のパナー

○過去のDMなどの広報物

○「世界—黒い絵」展示

◆美演の展示

・「人力ジュークボックス」ブルーカメレオン、JIMO(交渉中)

・PiaFluTap(交渉中)音楽とタップのコラボレーション、アートピクニックの記録

・カフェで耳散歩、朗読(交渉中)

その他、対話型鑑賞の実施(どのような形か要ご相談)

種別：報告シート	題名：『THE archive 2024』in the Ageo Art Center	氏名：森久憲生(上尾アートセンター)
----------	---	--------------------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク

SMF

Small Museum of Fine Arts

タイルモザイク作品を作っています。タイルの質感や種類の豊富さが魅力です。この作品は、市松文様をガラスタイルとジュエルタイル、七宝を組み合わせて「雲」と「水」と「雲」を主眼としたようなイメージで制作してみました。雲のカタチはどんなカタチでも空に浮いていければ雲になる。ジュエルタイルには自然が作り出した光沢と色のグラデーションが神秘的で角度によっても明るさと暗さ、色合いが変わるので使ってみました。

同じように色調で空の明るさ暗さを青のガラスタイルにも明るい青から濃い青までを使い分けてモザイク表現し、手作りの七宝も同じように青い濃淡をつけてパーツ作りをしました。七宝を焼いていると微妙な温度の差で発色が変わる楽しさや、難しさ、それをそのまま色合いとして格子状に並べてみたらとても面白い表現ができたと思いました。

平面において展示したときに、誰かが「水たまりのようだ」と言っていたので、「そうだな、水にも見えるな」と思ったのと、青色のグラデーションをすることで光の当たる所と影になって暗い所のようにもみえたのが楽しく感じ製作も楽しめました。

「紡ぐ」とは、縦糸と横糸を交互に交差して編み込んだような質感を最終の中にあるルールを保って配置したところ、作業自体が紡いでいるような作業になっていったところから雲を紡いだらどんなに面白いだろうと想像しタイトルを「雲紡ぐ」にしました。

種別：作品シート	題名：雲 紡 ぐ	氏名：山口素子
----------	----------	---------

TAKARABUNE 2025 風のカタチ 空のキオク

SMF

Small Museum of Fine Arts

MOMASのエントランスで蝶をつくるワークショップ

種別：夢のシート	題名：MOMASで蝶をつくらう	氏名：矢花 俊樹
----------	-----------------	----------

46

47

会場イベント 記録

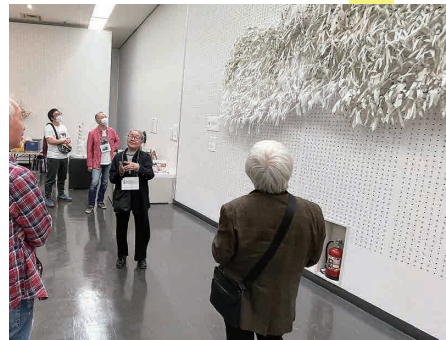
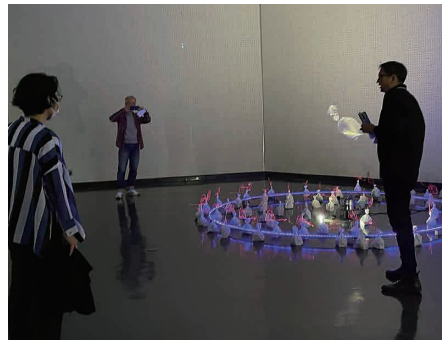
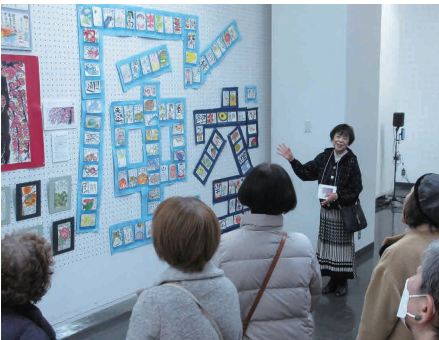
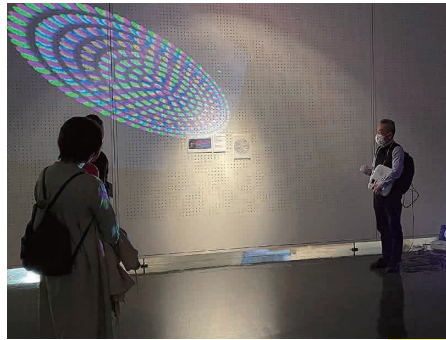
出展者同士また来場者と出展者のコミュニケーションを図り、アートの夢を共有し育むことがTAKARABUNEの重要な目的のひとつです。今回もアーティストトークをはじめ、制作実演、ワークショップ、各種パフォーマンスなどが、にぎやかに会場で開催され、さまざまな出会いや多くの発見の場となりました。(参加者総数:計304名)

会期中随時開催:菱田 祐一郎 プロジェクションパフォーマンス「RECORD_T51 花風を纏う」
暗室を中心にプロジェクターを持って移動しながらご来場の方々と楽しみました。5日間 計98名

3月19日(水)
13:30～14:00 アーティストトーク〔中村 隆、金原 京子、絵手紙浦和会、社会芸術/ユニットウルス〕 14名

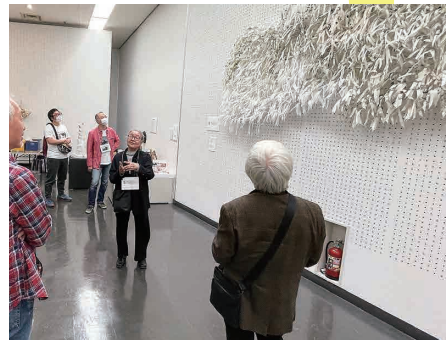
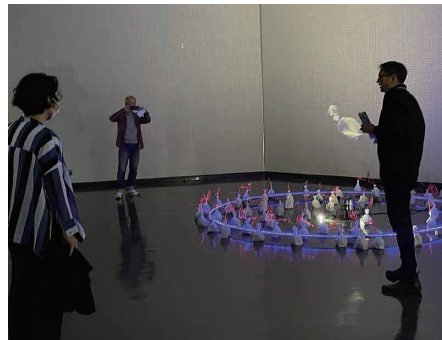
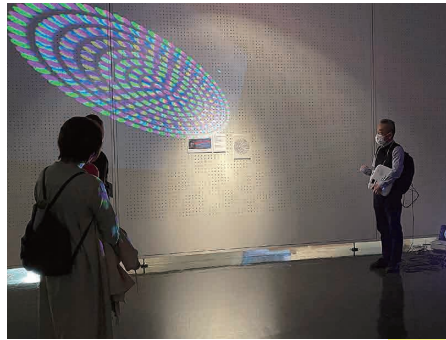
3月20日(木・祝)
11:00～12:00 はたみき 制作実演「ときどきドキドキ同意Tシャツ」 11名
13:30～14:00 アーティストトーク〔はたみき、加藤 典子、石崎 幸治、山口 素子〕 14名

3月21日(金)
13:30～14:00 アーティストトーク〔出店 久夫、絵手紙浦和会、森久 憲生(上尾アートセンター)、みょうか〕 9名
11:00～13:00 絵手紙浦和会 制作実演「ようこそ、絵手紙の世界へ」 8名



3月22日(土)
11:00～12:30 suzu 制作実演「《風のカタチ》を描こう」 9名
13:30～14:00 アーティストトーク〔suzu、矢花 俊樹、菱田 祐一郎、社会芸術/ユニットウルス、電子音響ピープルプロジェクト&東京電機大学「作曲音楽 文化研究室」〕 11名
14:30～16:00 加藤 典子、矢花 俊樹「アートの素・パントリー自由創造ワークショップ」子ども18名、保護者24名

3月23日(日)
10:30～12:00 加藤 典子、矢花 俊樹「アートの素・パントリー自由創造ワークショップ」子ども15名、保護者18名
12:15～12:45 アーティストトーク〔クリスタルトータス(jik & taco)、SYUTA、シミズフローラルデザインスクール、西尾 路子、中村 元〕 20名
13:00～14:00 社会芸術/ユニット・ウルス 野良の藝術2024 関連パフォーマンス 35名
・13:00～13:15 「Suikinkutsu」踊り:細田 麻央
・13:30～13:35 「好音」朗読:高橋 良知
・13:50～14:00 「かつて、緑の哲学を唱えた人がいた」彩のくに創作舞踊団 藤井 香／出演:海保 文江、佐々木 春呼



TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」来場者アンケート 集計結果報告

会期中5日間(3月19～23日)会場入口脇にアンケートコーナーを設け、来場者にご記入ご協力をお願いした。各回の来場者数／アンケート回収数(比率％)は、今回2025年が926名／74通(8.0％)、前回2024年が818名／84通(10.3％)、2023年717名／66通(9.2％)であった。来場者数は昨年比108名増えコロナ後最高となった。出展者、関係者のご尽力に感謝を申し上げたい。一方でアンケートの回収数は10通減となった。会場構成の都合でアンケートコーナーを1カ所にした影響もあったかも知れない。

貴重なご意見をいただいた来場者のみなさまに感謝し、項目ごとに集計結果を報告させていただく。

(※各項目の回答数は、複数回答可の項目、複数で来られた方の代表が記入している場合、また無回答の記入者もあり、項目ごとに変動します。)

A どちらにお住まいですか(回答数71)

「浦和区」が最多で28.2％、近隣区を含め「さいたま市」が59.1％、「埼玉県内」が84.5％、「埼玉県外」が15.5％。県外のうち都内が64％であった。

- さいたま市 42 (59.1％) 浦和区20、桜区5、緑区4、中央区3、大宮区・北区・南区・西区・見沼区・各1
- さいたま市以外の埼玉県18 (25.4％) 蕨市3、草加市・越谷市・朝霞市 各2、川口市・上尾市・新座市・坂戸市・深谷市・吉川町 各1
- 埼玉県外 11 (15.5％) 東京都7、神奈川・北海道 各1、不明2

B ご年代を教えてください(回答数75)

「60歳以上」が52％と最多、これに「40代・50代」を加えると76％となる。次いで「就学前・小学生」が14.7％。一方で「中・高・大学生」、「20代・30代」はあわせて9.3％ときわめて少なかった。これまでと同様の傾向で比較的年齢層の高い来場者が多く、学生を含めて若い世代への発信の強化が望まれる。また土日の「アートの素・パントリー自由創造ワークショップ」来場の親子連れの方々は、アンケートに記載されていない方が多く、小学生以下の来場者実数は、これより多かったと思われる。

- 就学前・小学生 11 (14.7％) 2. 中・高・大学生 1 (1.3％) 3. 20代・30代 6 (8.0％)
- 40代・50代 18 (24.0％) 5. 60才以上 39 (52.0％)

C 今日は何人で来られましたか(回答数73)

例年通り「一人で」が42.5％と最多だったが、比

率は継続して低下してきており、呼びかけ合って複数で来られる方が増えたものと思われる。「二人で」や「三人で」がこれに次ぐのが通例だが、今年は意外にも「四人以上で」が26.0％で2位となった。

- 一人で 31 (42.5％) 2. 二人で 18 (24.7％)
3. 三人で 5 (6.8％) 4. 四人以上で 19 (26.0％)

D この催しをどこでお知りになりましたか(回答数76)

出展者、関係者の口コミ、DM等の成果か「知人の紹介で」が53.9％と半数以上を占めた。次いで「知らなかった」が21.1％であった。今回はポスターは北浦和公園掲示板と美術館内や会場入り口のみの掲示であったので、「ポスター掲示」の7.9％とあわせると、公園や美術館に来てたまたま入場した方々が4分の1以上と推定される。「チラシを見て」は10.5％であった。チラシ配布は出展者を除くと、連携美術館やさいたま市及び周辺の主要文化施設限定の限られた数であったことを考えると、一定の効果はあったと言えよう。

一方で「SMFホームページ」は2.6％と少なかった。若い世代が活用するSNSへの発信の試行を含め、広報面の強化も今後の重要な課題であろう。

- 知人の紹介 41 (53.9％) 2. SMFのホームページ 2 (2.6％) 3. チラシを見た 8 (10.5％)
4. ポスター掲示 6 (7.9％) 5. 知らなかった 16 (21.1％) その他(新聞で見た) 1 (1.3％)

E この会場に来られた目的を教えてください(回答数79)

「知人の作品を見に」が50.6％と最多、次いで「展覧会を見に」が38.0％であった。「トーク、ダンス、コンサート、ワークショップ」は、このアンケートでは0だったが、会期全体の各イベントの参加者総数は304名で、来場されてこれらのイベントを楽しまれた方は相当数に上るとされる。

- 展覧会を見に 30 (38.0％) 2. 知人の作品を見に 40 (50.6％)
3. トーク、ダンス、コンサート、ワークショップ 0 (0％) 4. 特にない 6 (7.6％)

その他 3 (3.8％)：あそび 2、新聞見て興味持ち 1

F 今年が8回目ですが、これまでにご覧になったことがありますか(回答数72)

「今回初めて見る」が48.2％と昨年に続き半数を切った。継続的な開催で徐々にリピーターが

増えてきていることが、アンケートの記述項目からもうかがえる。出展者と来場者の双方向のコミュニケーションが可能な場に向けてさらに継続・発展が期待される。

- 1～2回見た 16 (22.2％) 2. 3～4回見た 18 (25.0％) 3. ほぼ毎回見ている 3 (4.2％)
4. 今回初めて見る35 (48.6％)

G TAKARABUNEがプロ、アマやジャンル、団体の垣根を越えて夢を共有する場だとご存知でしたか(回答数70)

TAKARABUNEが、団体の構成員がそれぞれの作品を持ち寄って展示する通常の美術団体展とは異なり、誰もが参加可能で、絵画や彫刻に限らず、それぞれの多様なアートの夢を共有する場であることを、アピールする設問である。「知らなかった」が57.1％と昨年よりは低下したが、「知っていた」と「何となく聞いたことがある」をあわせても27.1％と、まだまだ少ない。今後も継続を図って理解者を増やしていきたい。

- 知っていた 12 (17.1％) 2. 何となく聞いたことがある 7 (10.0％)
3. 知らなかった 40 (57.1％) 4. よく分からない11 (15.7％)

H 今回の展示をご覧になっていかがでしたか(回答数66)

「とてもよかった」(56.1％)と「よかった」(42.4％)で98.5％と、たいへん好意的に評価していただいた。さまざまなプロジェクトを含めて多種多様な作品、個性的な表現や実感のこもった作品づくりに、多くの来場者が共感してくださったようだ。アーティストトークも作品に近づく重要な手がかりとなった。

- とてもよかった 37 (56.1％) 2. よかった 28 (42.4％) 3. あまりよくなかった 0 (0％)
4. よくなかった 0 (0％) 5. その他 1 (1.5％)

- とてもよかった：・レベルの高い作品ばかりだった／芸じゅつめっちゃくちゃカッコよかった！／サイコパスクッキングがたのしかった
- よかった：多種多様の作品を楽しめました／インスタレーションですね、個性的でよかったです。暗室を設けるのも／テーマによって作者毎にとらえ方が異なり ひとつひとつじっくり見せて頂いた／一人一人の脳の構造から生み出されるものは多様であり、理解することよりも 只 立傍むだけで／子供が参加のできるワークショップがあってよかったです。／作者の方の解説が聞けて作品への理解が深まった。



東京新聞2025年3月19日(水)付け

I 作品の脇にあるエントリーシートやキャプションは作品に近づく助けになりましたか(回答数56)

「役立った」(62.5％)、「とても役立った」(28.6％)あわせて91.1％と多くの方に鑑賞のヒントとして役立てていただいたようだ。一方でキャプションの大きさ(A5判)に限りがあり、文字数が多くなると文字が小さくなることもあって、もう少し字を大きくというお声もいただいた。

- とても役立った 16 (28.6％) 2. 役立った 35 (62.5％) 3. あまり役立たなかった 1 (1.8％)
4. 役立たなかった 0 (0％) 5. その他 4 (7.1％)

- とても役立った：字をもう少し大きくしてほしい(説明文)／ペットボトルのやつがすごかった！／ペットボトルのがすごい
5. その他：時間がなくてよくみていないのが多い／よくわからない

J 特に印象に残った作品や応援したい夢などがありましたら、お教えください

(以下、先頭の丸数字は出品リストの作品番号、続く人数は当該作品を挙げた人数、記載は自由記述欄にあった記載を、誤字脱字含めてそのまま記述し、記述が複数人ある場合は「／」で区別した。また同一アンケートに複数の作品が記述されている場合は各作品に振り分けた。)

- ① 1名：さくし、机
- ② 3名：絵手紙はテーマに添い自由におもしろいおもいをかかれて ひと足先に春が来たようです。／絵手紙が楽しかった。参考になった。／絵手紙にも興味があるので一度やってみたいですよ
- ③ 3名：加藤典子さん、素材あつめ ワークショップなど 応援したいです。／こども達の作品は可能性を感じる／子どもの作品
- ④ 3名： ペットボトルの雨とくも／ペットボトル

のやつ／とてもすてきなさくひんでした

- ⑦ 2名：野良の芸術の活動に興味を持った、くわしく知りたいと思った／野良の芸術。炭焼灰の香りがとてもよかった。極上のお香でもこの香りには及ばない!!

- ⑧ 2名：くらい部屋の矢印のさくひん／日常の延長にある作品が心に残りました。または何か大切にしているものの表現された形
- ⑨ 2名：ユニコーン画家 suzuさん 少年とユニコーン 立体でよかった／suzuさんの作品 段ボールのユニコーンと男の子？女の子？が印象的でした。がくぶちにも絵が描いてあり良かったです

- ⑩ 1名：日常の延長にある作品が心に残りました。または何か大切にしているものの表現された形

- ⑪ 2名：音響を使っている作品／東京電機大学のチーム(の作品)、弟と息子がTDU卒

- ⑫ 2名：写真で作品を作ってすごい／同じもののようで異なる表現がおもしろかった

- ⑬ 2名：えからだと いすに くみたてられるやつ／とてもすてきなさくひんでした

- ⑭ 3名：はたみきさんの同意しました。／いつもパワフルな刺激をもらっています。／日常の延長にある作品が心に残りました。または何か大切にしているものの表現された形

- ⑮ 1名：どっきりしました。

- ⑯ 1名：日常の延長にある作品が心に残りました。または何か大切にしているものの表現された形

- ⑰ 2名：虫の表現がよく、今にも飛んでいきそうに見えて感動した。もっといろんなものを見たいと思いました。／矢花先生の“そらのきおく”
- ⑱ 1名：山口素子さん

K SMF(サイタマミュージアムフォーラム)やその活動についてご存知でしたか(回答数56)

残念ながら「知らなかった」と「よく分からない」の合計が昨年の64.8％から85.7％に増え、過去のSMFの活動を記憶されている方が減少しているように思われる。広報面、事業面含めどのようにアピールし浸透を図るかを検討する必要があるようだ。

- 活動に参加・協力した 1 (1.8％) 2. 知っていた 5 (8.9％) 3. 聞いたことがある 2 (3.6％)
4. 知らなかった 39 (69.6％) 5. よく分からない 9 (16.1％)

L その他、TAKARABUNE 2025やSMFに

ついてご意見ご感想、など、ご自由にお書きください

■好意的なご意見：
初めて見ましたが楽しい気持ちになりました。ありがとうございます。／私自身、油彩をやっていますが、いろいろな角度からのヒントをいただきました。とても興味深く、おもしろく見る事が出来ました。ありがとうございました。／アーティストの方に毎回刺激をもらっています。／自由な発想に毎回驚きます。アーティストトークを聞くと作品に対する想いがよく伝わり楽しいです。／とてもおもしろかったです。これからもがんばってください／作品を見せていただき楽しみです／また観る機会があると嬉しいです。／さいたまきりえ展と毎年同時期だとよいですね／続けて下さい／面白く取組、企画をやっていてとても良いなと思いました／色々な個性ある作品を見て、勉強になりました。／各々個性のぶつかりあい 自分のアートとは何！空はひとつ 地上はバタバタしてる世界を風で吹き飛ばす。ヒントが多くある作品展ありがとうございます。／やはり展示の半分は会場の香りだと思います。野良の芸術の炭灰の香りが会場中にたどっていたのが、大成功でした。(※編集者注記：展示室の異臭については、会期2日目に美術館から申し入れがあり、脱臭スプレーで臭い消し作業を行った。「有害無害にかかわり、臭気の強いものの展示室への持ち込みは遠慮してください」とのことであった。)／おもしろかった／次回は参加したいです(自分自身の団体で)

■改善点など：
暗室で昇降機が使われていて長い時間作業音がうるさかった。静かに観賞するために平日に来たのに残念でした。／ひさしぶりに来たが前にくらべると種類と作品が少なかった。もう少し出展数がほしい。表題も一般的でない様な気がする。キャッチフレーズを入れて、一表題に対して具体的に表すもの。／ネット時代にあったせんでんを、「近代美」からもすぐみられるとよい

貴重なご意見や励みとなるあたたかいお声を多数お寄せいただき、まことにありがとうございます。SMFの今後の活動に活かしてまいります。創る人、観る人、つなぐ人、それぞれの夢を結びながら、未知の水平線を目指すTAKARABUNEの航海は続いて行きます。さまざまな垣根を越えて心豊かに楽しむ場を、一緒に作ってまいります。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

TAKARABUNE 2025 担当 中村 誠

SMF 履歴書

■ 幼年期 (PRE SMF 時代)

2002 年 ヒアシンスハウスをつくる会、発足
2004 年 ヒアシンスハウス竣工
2006 年 さいたまアート懇話会
2007 年 さいたまアートフォーラム研究会

■ 少年期

2008 年度 SMF 発足
平成 20 年度 文化庁「芸術拠点形成事業」(ミュージアムタウン構想の推進)
LINK! ミュージアムからアートの風を!!「風の記憶」…… アート竜巻フェスタ 2008
2009 年度 平成 21 年度 文化庁「美術館・博物館活動基盤整備事業」
SMF アートのわっ!「風の行方」…… あつまれアートのつむじ風 2009
2010 年度 平成 22 年度 文化庁「美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業」
交差する風 織りなす場「風の軌跡」…… SMF アート楽座・アートバンク 2010
2011 年度 平成 23 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「つながる Heart Art」
2012 年度 平成 24 年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 (ミュージアム活性化支援事業)
Saitama Art Platform 形成準備事業「ひろがる」

■ 青年期

2013 年度 SMF の組織化
(会則の作成、会員の会費による運営、フォーラムの開催とフォーラムの決議による運営)
2014 年度 平成 26 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
あなたとどこでもアート「小さな家プロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の初年「住」)
「アート長屋」建設
「アートのまつり」開催
2015 年度 平成 27 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「着がわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の 2 年目「衣」)
「アート長屋」入居開始
「宝船展 I」開催
2016 年度 平成 28 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
あなたとどこでもアート「おかわりプロジェクト」(衣・食・住をテーマにした 3 年計画の最終年「食」)
「宝船展 II」開催
さいたまトリエンナーレ 2016 に参加
「SMF 学校」運営

■ 成年期

2017 年度 組織化された SMF の自立した活動の初年
「宝船展 2018 @ MOMAS」開催
2018 年度 親ばなれて自立しようとするれば、それなりに忙しい。
大宮アートフェスティバル 2018 で「SMF アートパーク」開催
入間市博物館では SYUTA さんのワークショップに柴山さんの「電子音響ピープル」
北浦和の商店街に光るきたうらワンが現れたり、ハロウィンで「変身★自分仮面を作ろう」等々々
「宝船展 2019 @ MOMAS」開催
2019 年度 埼玉県立近代美術館「MOMAS のとびら」参加
「フワリつばさで鏡の国を飛んでみよう」
「美術館にぞうが遊びにきたぞう!」
「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう!」
「きたうらわアートウィーク 花・花・花」(北浦和西口ハッピーロード・ふれあい通り) 参加
さいたま国際芸術祭 2020 公募プログラム「SMF 宝船展 2020」開催
宝船展 ON THE NET/ 宝船展 @雲をつかむ / 宝船展 @ MOMAS
(宝船展 @ MOMAS はコロナ禍による埼玉県立近代美術館閉館により残念ながら中止)
2020 年度 令和 2 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業「SMF with コロナ」開催
アート寺子屋 / アート井戸端 / 宝船展@アート長屋
「宝船展@ MOMAS2021」(くもをつかむ) 開催
令和 3 年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業
「SMF アートコロニープロジェクト - ヒアシンスハウス編」開催
埼玉県立近代美術館 MOMAS のとびらに協力
「和紙を貼って貼って○ランプ! □ランプ!」
入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「身近なもので楽器(カホネレ)を作ろう!」
「宝船展@ MOMAS2022」(くもをたがやす) 開催
2022 年度 入間市博物館 ALIT の連携館ワークショップに協力「『ひみつのたまご』をつくろう!」
令和 4 年度 社会とつながる文化芸術活動助成事業「アートの素・パントリー」開催
「TAKARABUNE 2023」(夢のかけらをくもにまく) 開催
2023 年度 「TAKARABUNE 2024」(漕ぎ出したアートのまつり) 開催
2024 年度 「TAKARABUNE 2025」(風のカタチ 空のキオク) 開催
連携ミュージアム合同会議開催



「風のカタチ 空のキオク」を終えて

■喜ばしかったこと

初日こそ雪混じりの冷たい雨で始まりましたがその後は晴天に恵まれ、昨年を上回り 1000 人に達しようという来場者。数字が全てではないと嘯くのもアーティストらしく悪くないかもしれませんが、こうなれば来年こそはぜひ大台に乗せようと日利見してしまうのも本音です。

■嬉しかったこと

新聞社への広報が功を奏し、東京新聞の取材を受けました。記者はアーティストトークや会場実演に興味を示し、「社会とアートをつなぐ」という表題で、TAKARABUNE 初日、さっそく「埼玉」のページに掲載されました。ことさら「はたみき」さんの「同意」という言葉に込められたイメージが共感呼んだようで、彼女の晴れやかな笑顔が紙面を飾っています(51 ページ)。TAKARABUNE が記事としてこれほど詳しく紹介されたのは初めてのことです。

■楽しかったこと

TAKARABUNE の楽しさはこの記録集に数多く載っている中村元さんの写真からも伝わったことと思います。連日皆勤で写真を撮り続けてくださった元さん、ありがとうございます。

それでもアーティストトークの面白さはやっぱり会場ならではのでしょう。出展した魔術師たちの自己紹介は表現豊かで、毎年、そのタイムキーピングがトーク進行係の楽しい苦労になっています。

■明るい兆し

TAKARABUNE の企画ではないものの、初日の午後に連携美術館 5 館との合同会議が実現しました。少年期までは親密だった 5 館との親戚づきあいも歳をとるごとに縁遠くなっていて、あらためてその絆を深めたいというほくらの希望に呼応して、悪天候にも拘らず 5 館の担当者全員が出席、TAKARABUNE

も鑑賞し会議に臨んでいただきました。そして「SMF が開催する連携 5 館との合同ミーティング(年 2 回程度)に参加する」との文言を各美術館との協定書に入れられる見通しが立ったことは、その日の午後の雨上がりのように明るい兆しでした。

以上 TAKARABUNE 2025 寸感を並べてみました。

その後、建畠哲さんが任期を終えて埼玉県立近代美術館館長を退職されたことを知りました。氏は 3 月 21 日の金曜日に展覧会を鑑賞し、SMF の成長を評価してくださいました。SMF 少年期から今日までずっとその活動を見守り、館長の立場からも後押しし続けて下さいました。そのご厚情にこの誌面をかりてお礼申し上げるとともに、これからご支援ご鞭撻をお願いしながら TAKARABUNE 2025 の幕を下ろします。

三浦 清史 (SMF 代表、建築家)

TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」

会期: 2025 年 3 月 19 日~3 月 23 日

会場: 埼玉県立近代美術館 一般展示室 1

主催: SMF (サイタマミュージズフォーラム)

会場レイアウト: 長野 恒

会場運営: 各出展者、ワーキンググループ、東京電機大学「作曲音楽文化」研究室



TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」ワーキンググループ

加藤 典子、柴山 拓郎、鄭 直樹、長野 恒、中村 隆、中村 誠、長谷川 千賀子、
菱田 祐一郎、三浦 清史、三友 周太、山口 素子、吉田 富久一

TAKARABUNE 2025「風のカタチ 空のキオク」記録集

発行: SMF (サイタマミュージズフォーラム)

<http://www.artplatform.jp> (SMF ホームページ)

<http://www.artnagaya.jp> (SMF アート長屋)

編集: 中村 誠、三浦 清史

デザイン・印刷: 有限会社アームズ(中村 隆)

記録撮影: 中村 元

写真提供: 各出展者

2025 年 6 月 8 日発行



SMF のミッションと入会のご案内

SMF は、既成のジャンルにとらわれない自由な視点からさまざまなアートプログラムを企画し、アートをめぐって多くの人がつながっていくためのプラットフォームです。

SMF は、さまざまな生き方をしてきた人が集い、触発し合いながら、まだ見たことも聴いたことも経験したこともないようなモノゴトを創りだすこと、これまで見えなかったモノゴトが見えるようになること、これまでとモノゴトが違って見えるようになり、生きることが豊かになることを目指して活動します。

SMF は、埼玉県内各地のミュージアムをキーステーションとし、美術、建築、音楽、文学、ダンス、パフォーマンス、地域活動など、さまざまな領域のメンバーがともに活動し、そのための事業を企画し開催します。

身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造する SMF の活動をご一緒に楽しみませんか?

ご興味をお持ちの方は、smf.info@artplatform.jp までお問い合わせください。

2008 年以降の活動記録は SMF ホームページ

<http://www.artplatform.jp> からご覧ください。



着がわりプロジェクト フィナーレ 2015



アート竜巻フェスタ@川口 2008



創作ダンス 旅する小さな家ー思惟の庭ー2014



<http://www.artplatform.jp>



TAKARABUNE2025

